一陽会会報

ICHIYO

No.48
2013.4

視点 21

◆運営委員推挙

一陽会における私の30年とこれから

絵画部　泉 谷 淑 夫

もともと一匹狼的なところがある私が、何故一陽会という公募団体展に30年という長きに亘って所属し、今回運営委員という重責を引き受けたのかを考えると、我ながら感慨深いものがある。一陽会に出品したての頃は順調な滑り出しであったが、組織になじめない性格と本業（教員）との兼ね合いもあって、ほどなく制作は低迷し、会友から会員に上がるまでに８年という予想外の期間を要した。しかも後半３年間は出品作への自負があっただけに、「認められない」苦しさとの闘いでもあった。一陽会を辞めようかと迷ったのはその頃だが、細川先生からの励ましでなんとか踏みとどまることができた。

会員に推挙されてからは運が向いてきて、「安井賞展」や、「金山平三賞展」への出品を始めとして、作品発表の場が急に広がり始めた。その後は全国公募のコンクールでも好結果を残せるようになるが、常に自分の中にあったのは“他流試合”で負けるわけにはいかないという意識で、いつの間にか私の中に一陽会への思い入れが育まれていたようである。これは岡山への転居に伴い、神奈川支部から関西支部へと異動したことで、一陽会の仲間との交流が増えたことも関係している。とりわけ関西支部の方々は慣れない私を温かく迎えてくれ、おかげで私は公募団体展の良いところを学ぶことができた。

国立新美術館に発表の場を移すと同時に委員に推挙されてからは、より一陽会のことを考えるようになった。ただし故・森代表との間には常に緊張感があり、気楽に接したことは一度もない。それはやはり私の中に「作品で勝負したい」という思いが強かったため、必要以上の親密さを求めなかったせいでもある。そういう意味でこれまで、細川先生や濵田先生、舘野先生などと作品を通した交流が続けられたことは幸いであった。

このように一陽会における私の30年は、常に葛藤の連続であった。逆にだからこそ安易にならずに制作に励み、一陽会という組織を冷静に見られたように思う。私が運営委員になってもこのスタンスは変わらない。和やかな中にも緊張感のある雰囲気を作り、その中でベテランと若い力が切磋琢磨できるような一陽会を目指して頑張りたいと思う。

◆運営委員推挙

風通しの良い会運営を…

絵画部　小 松 富 士 子

毎年、一陽会本展開催を円滑に実施するべく周知の如く事務所は、私達が想像するより遙かに大きな重責の中に御家庭の協力を得、誠実、真摯に務められております。それ故、私達は常日頃何の不安を感じず制作・本展を迎えています。

さて今日はその事務所の一端を担う『縁の下の力持ち』の女性会員の存在を私の狭い理解のみで恐縮ですが紹介致し、皆様にお考え頂き度く思います。展覧会運営には会員の協力、実動の重要さ、男女問わず適材適所にて役目を担っています。ただ前述しました女性会員の実務は自分達の制作を早めに切り上げ、搬入日以前より終了残務まで長期間続きます。担当者は物理的とは言え、都内、近県の方々で10数年もしくは30年と続けておられます。皆一様に一陽会の理想と発展を念じ、一生懸命頑張って今にあります。然し、年齢的に高くなっていますので交代の問題意識を抱えていますが、それ以上の問題は、この実務実態を知らない回りの無関心さにあります。特に中枢にいる会員にはどの様に映っているのでしょうか。『縁の下の力持ち』なのだから当たり前とか、その様な仕事は自分には関係なかったとか、自分はそれ以上の重要な役割を担っている等々と思っているのでしょうか。つまり地道な仕事と従事する人に対して、理解しようとする心や気持ち、思い遣る気持ち、折りに触れ手伝おうと思う気持ち、無論彼女達に限らず年齢的に大変な様子で展示に汗を流す会員に、それぞれの担う仕事を認め、感謝の気持ちを持てない限り、ただの思い上がりに過ぎません。

一陽会歴代事務所の問題と思われるこの件に20年、30年と担う会員は全てに有能なヴェテランの為、簡単に交代は出来ないのでしょう。交代可能な会員の人数分母が不足しているのも悲観材料なのですが、そこで会員の皆様に一部を負担して頂く、世は技術革新にて何か利用可能な分野の有無等調査をしてみては如何でしょうか。又この件につき担当者と直接話し合う機会を一度持ち、生の声、意見を聞いて良い方向を見つけて頂き度く思います。

事務所を中心に風通しの良い会の運営を願うと共に、美を創造する側は美術（表現）の多様性と現代性を尊重し、今まで一陽会を愛し、大きな足跡を残された先導者及び先輩を忘れず、かつ一陽会発足時の進取の精神と理想を頭に一人一人が責任を担っていくべきでしょう。

◆運営委員推挙

彫刻部の58回展を振り返って

彫刻部　小 林 達 也

一陽会の歴史を思い起こすと、創立から３回展までが東京日本橋高島屋で開催され、４回展から52回展までの48年間の永きに渡って東京都美術館で開催されてきました。そして、53回展より東京都美術館から国立新美術館に会場を移すこと６年目となりました。この間の時代の流れと美術界の変容、紆余曲折がありながらも立派に一陽会が存続することができたのは先人の礎があってのことと感じています。私自身が直接的に一陽会を知る切っ掛けは22回展からでした。当時学生だった私と友人に委員になられたばかりの横沢英一先生（1980年退会された）からアルバイトに来いと言われて、22、23回展の審査会と陳列の手伝いに駆り出されることになりました。その時にはまだ公募展の何たるかも知らず、審査委員の先生方のご発言の余りにも意味深い言葉と、作品の重量感や触れたことのなかった存在感を体感し、数々の作品と作家の息遣いで活気溢れる会場を目の当たりにしたことを、今も記憶としてはっきりと残っています。そして私は触発され、24回展には信州、霧ヶ峰にある採石場の山にひと夏を過ごし、制作した作品を出品することができました。当時、彫刻部では若き先輩や同世代の人々も多く、ライバル心も若気むき出しに意識し合っていたことがついこの間の様に思います。その後30有余年、その多くの作家たちは他での活動に移るなど、去ってしまった。少し残念に思うが、現在員の諸先輩や仲間たちが、より質の高い作品と会場空間を造ることに力を注ぎ、結束を固めて突き進んでいることは確かだと思っています。

さて、58回展の若手、中堅の作家を思うと、昔の粗削りで野心的な機運とは違うものの、冷静でありつつも個性溢れる有望な人材は多く、未来を期待するものであります。その中でも、新・委員の登坂真澄氏、会員の安田操氏のお二人は、常に鑑賞者の心に残る作品であったと思います。また、土井敬真氏、深谷直之氏、矢野真氏、染矢義之氏には、まさにその名を示す、真の通った独自の世界観を持ち、技能の確かさを感じさせています。そして、名前は挙げずとも多くの魅力に満ちた作家たちが、実に見応えのある作品を展覧会会場に捧げることができました。小生、弱輩ながら生意気ついでに申し上げれば、現在員の地道な活動が、確実に成果を上げていると感じます。

◆運営委員推挙

自分を計算に入れると目が曇る

絵画部　三 阪 雅 彦

私の伯父河村運平は二科会の商業美術部の会員であった。日本を代表するポスター作家のひとりであり、関西有数のポスター作家でありながら、その名を知る人は少ない。伯父は若い頃から著名な日本画家の門をたたき日本画を学び卓越した技術を身に付けていた。ポスター作家としての名声を得た後、広告よりも美術に重点を置き、油絵も描いていたが、残念ながら昭和41年に60歳で没した。子供のころ、４枚の襖に下絵もなしにあっと言う間に水墨画を仕上げたのを目の当たりにして驚いたことを今でも鮮明に覚えている。

また、東郷青児氏と伯父がオープンカーに乗ってパレードしている新聞を見せてもらった事もあった。幼いころから伯父のアトリエに出入りしていた私は必然的に二科展に出品するようになった。妹である母はいつも伯父が自慢だったし尊敬していたので私が絵を描く事をとても喜び期待してくれた。そんななか高校3年の春伯父はこの世を去った。それからしばらくは二科展に出品していたが25歳のとき洋画家になりたいと一念発起し米良道博先生のアトリエを訪ねた。先生は快く春の出品作品のエスキースを見てくださった。いつも口癖の様におっしゃっていた言葉がある『ここに5本足の馬がいたとする、世の中の人は注目するだろうがサラブレッドにはほど遠い』。昨今、病んだ絵が多い中、今でも肝に銘じている。

初めての懇親会の席上で上座に、米良道博先生、大石可久也先生、佐野儀雄先生他、御歴々の先生方が居並ぶ中、たまたま空いていた上座付近に座らされて、諸先生方からいろいろお話をしてくださった、二科会のころには考えられない事だった。その時私はこの会に出品させていただいて良かったと心からそう思った。

その頃、東京に行くといろいろな方から、君は～先生派かそれとも～先生派なのかとよく聞かれたものだが、関西ではまったくそのようなことはなく、諸先生から数多くのご指導を頂いたし、賞を頂いた時など皆様心から祝福してくださった。このすばらしい会風はいまでも続いている。私はこの会で育てて頂いたことを本当に感謝している。

あれから随分人も入れ替わったが、私もいつの間にか責任のある歳になった、これからが恩返しの時だと考えている。

『自分を計算に入れると目が曇る、自分を捨てて人の喜びを自分の喜びにしなさい』と師に教えていただいた。上に立つ者はそうあるべきだと思う。一陽会の発展の一端を担うべく日々精進してゆく所存です。

◆運営委員推挙

一陽会の明日を思う

絵画部　杉山　司

我が一陽会は、来年には創立60回展を迎えることになります。60年と言えば人生では還暦です。定年退職となり第２の人生を始める人もあるでしょう。絵描きに定年はありませんが、何やら一つの区切りという気分ぐらいはありそうです。

戦後、洋画、彫刻、版画の美術団体。1955年（昭和30）二科会を退会した鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心に創立会員14人により結成されました。私が初めて出品した15回展の当時は、旧東京都美術館で一陽会展が行われていました。陳列会場は狭く、一部を除いては２段掛け３段掛けでしたが、２点作家も多数おり、会場からは圧倒的な制作の熱意が感じられたことを、今でもありありと思い出します。活動の場は展覧会場に留まらず、会員の先生方の手に成る出版物などを街の書店でたびたび見かけることがありました。

一陽会展の会場も、新東京都美術館、国立新美術館と、この国の経済成長と共に歩んできました。現在では会員、会友をあわせ、400名近くを擁しています。

創立時の宣言文の中に、次のような一文があります。

「一陽会は先鋭なる未完成こそ推薦し　前人未踏の新分野の確立に努力するものである」

新しい時代を切り開いた先輩方の熱い意志が伝わってきます。

今の時代は、長引く不況の影響が、とくに創造的な活動を担うべき若者に重くのしかかり、閉塞感が蔓延し、美術界も少なからぬ影響を受けているように見受けられます。

そこで思うのですが、こういう時代だからこそ、各支部、グループの、世代を超えた充実した活動が大切なのではないでしょうか？

私の所属している東京支部では、今年と来年は都美術館（上野）で支部展を開催することが決まっています。一般からの参加が少しでも多くなるように工夫して、一陽会創立の精神に立ち戻り、新人の活躍できる発表の場としたいと願っています。

◆運営委員推挙

新しい版画開拓の可能性

版画部　北村五十一

一陽会の版画部は人数にこだわることなく、世界に輝く作家の誕生を育む団体でありたいというのが私のかねてからの願いであるが、どう伝えたらそんな方向にみんなで進むことができるのか、もっと研究の余地がある。日本の版画はどこの国よりも庶民の絵として受け入れられてきた土壌があり、昔から壁に貼ったり、軸物にしたり、襖に貼ったり、またまた屏風に貼り付けては楽しんできた。そこが原点には間違いない。庶民が楽しむ程度のものだからレベルが低いとかいうのでなく、立派に世界の芸術家にジャポニズムとして受け入れられてきたことは周知のことではあるが、なぜか近頃の傾向は世界の絵画（版画）情報にまどわされがちなのではないかと感じている。今、私的には、リサイクル画や誰かのコピー画でない独自の研究開発・作家独特の色の出た新しい芸術の発現にこだわる、魅力的で鳥肌立つ絵が出来ないかが大きな課題だ。

70代を迎えるにあたって

今、60代70代の作家の皆さんは、20代や30代の時代には、何でもありの?（実験的な作品が多くあり、当時の新しい考えに基づく作品創出に明け暮れる作家が多くいたように記憶している。）ある意味活気溢れる時代であった。ともかく私なんかも、世界の作家がまだ手をつけてない。自分から発信する新しい絵作りに毎日を費やしていた20代であった。

来年70歳になるのを前に、伊豆の池田20世紀美術館へ鈴木力展を見るため、佐渡人3人で出かけた。中に入って、今まで何度も見たはずの氏の絵が、大きな塊と説得力・感動を持って全身に飛び込んできた。アッ、この感じ以前にも体験したことあるぞ。それは30年以上前、アントニー・クラーベー展を東京で見た時と同じ感動であった。

私は今、20代の心意気でこれからも作品作りに取り組むことに、再度向かおうと思っている。

他のジャンルでも

絵は、毎年一般・会友・会員に関係なく何らかの審査を受けていて、進化しないと置いて行かれてしまいます。みんなで意欲を持って限りなく頑張りましょう。

徳永英明というシンガーソングライターは10年前に病気になって以来、自分の為だけでなく、聴いてくれる人のために歌いたいと思うようになったという。また、AKB48というグループは、聴く歌から『見る歌』へ変わってきたという。絵も同じで、見る人を惹きつけ、『この絵どうなっているの、なにこれ』と思われながらも、見続けたい・鳥肌が立つほど惹きつけられる作品に取り組み続けることは、画家にとって大切なパフォーマンスなんだろうなと思った。また、色んな大会で何度も優勝している演奏家も、耳慣れた聴衆は譜面に忠実な演奏より、譜面から抜け出し、もっと自由に跳んだり跳ねたり、奏者の新しい理解と感性による楽しい演奏に感動するという。そつなく上手なだけではつまらないとみえる。

雪の吹き込むベランダでは、親猫2匹と子猫3匹が特設のダンボールで団子になって寝ている。軒に吊した餌籠に入った籾餌に10羽前後のスズメが子猫の攻撃を上手に交わしながら群がっている。時々は湖畔の鴨も衝えて来ることもある。そんなアトリエで今日も張り切って絵に取り組んでいます。

（なお、版画部ギャラリートークは、一陽会ホームページに掲載されています。）

◆委員推挙

価値観を共有できる佳き仲間作り…

彫刻部　登坂真澄

突然の委員のお話に、少々戸惑っております。長年一陽会に在籍して参りましたが、東京から静岡に移り、子育てと遠距離の条件の中で、会と深く関わる事も無く、制作するのが精一杯の状況でおりました。気が付きますと、多くの先輩方・仲間達が去り、新しい世代・若い人たちが多くなっている事に驚きます。過ぎ去った時の流れを痛感せずにおられません。

先日、ヤンキースに残留が決まりましたイチロー選手が、【個々が最善を尽くす、苦しい時ほど、自分のやるべきことを考える。価値観を共有出来る仲間と共に戦う意味を考える】と言うような事を申しておりました。

改めて今を、会の一構成員として意識を高め、佳き仲間作りを、そして、自己の作品を再度見つめ直して行く好機に出来たらと考えております。一陽の名の下に折角集まった方々、若い人たちと共に歩めたらと願います。宜しくお願いいたします。

【一年の　入り口に立ち　手のひらの
　　鍵握りしめ　一歩踏み出す】

【季に習い　自然に学びて　揺れし感
　　驕らず育て　心の内に】

◆委員推挙

偶然の繋がり

絵画部　福田利明

1978年頃（35才）にエアーブラシを使い、トリックアートおよびシュールな画を描き始めた。その後、千葉の画廊主の薦めで'85から一陽展へ出品している。

初出品の日、上野の美術館で先生方の作品を見ていて息をのんだ。それというのも、私の最初の技法書"雑誌アトリエ"の中で故・森秀雄先生、棚瀬修次先生の作品を見ている。坪井正光先生の'79シェル美術賞展受賞作品にも出合っている。感動して拝見していた制作者が一陽展出品作家とは知らずに出品したため、とても興奮を覚えた。

出品を始めて７年後の'92頃に、それまでのシュールな絵ではなく、地表を剥ぎ取ったままを画面に貼り付けた、名付けるとすればビーリングアートといった表現に興味を持ち、それに時間軸を加えて描くことにこだわり、現在に至っている。

制作の原点は子供の頃の原風景、原体験と思うが、さらには、運命の軌道上をトコトコ進むなか、作家・作品との偶然の出会いも重なり、いまがあるとも思う。末筆ですが、委員推挙の栄を授かったが、肩をはらずに、一陽会に自由で明るく、未来志向で進むことに尽力したいと思います。

2012第58回一陽展を終えて

版画部 会員　池田美津恵

いつも思うのは、「すごいなあ。」ということばかりです。今回は、代表の先生が御逝去されて、「一体、どうなるのだろう。」と不安でしたが、例年のように大作が並び、広い会場に一陽会らしい静謐な中に力強さを感じていました。

このような会に出品させて頂いて、有り難いと思います。

毎年つくっているうちに長くなりましたが、恥ずかしい気持ちばかりが先に立ち、気後れしてしまうのですが…。何故続けてこられたかといえば、何となく絵や音楽といったことが好きだったのでしょうし、自由にさせてもらっていたからでしょう。

ずっと昔、まだ版画を始めて間もない頃、ニューヨークにアパートを借りたことがあります。アーティストが多く住んでいる所で、エレベータに乗り合わせた方の作品が、東京竹橋の近代美術館に常設展示されていたり、グリーンカードの取得を目指して制作を続けている方（後日、日本で発表されていました。）がいたりと、ずい分刺激的な毎日でした。

A・ウォーホールとギャラリーでばったり出会ったのも、この時でした。狂喜してしまったことを思い出します。

街のアーティスティックな活気は、自由で他の人のやらないことをやろう、という気概に満を得ていたような気がします。

私は、とても気楽な気持ちで始めてしまったものですから「ドーナツかいてドーナツ姫にしちゃおう!」などと、素人もいいところです。そのまま、今に至っているところに、どうにも恥ずかしさが抜けないわけがあるように思います。

そんなだらだらした気分を引き締めてくださるのが、年1回の『一陽展』の機会です。みなさんの思いのこもった作品を拝見して、「ちゃんとやらないと…」と反省してしまいます。

先日、『会田誠展－天才でごめんなさい－』を見てきましたが、一言「面白い!!」です。あの毒がたまらないのですが、とにかく上手いです。今、ネット上で批判の嵐が吹いているようですが、刺激的であることは事実でしょう。タブーも何のその、しかし美術への造詣の深さでしょうか、圧倒されてしまいます。安っぽい感傷なしに"つくる""物申す"。身につまされてしまいます。つくるからには、自分のアンテナを鈍らせずにやっていこう、と思うこの頃です。（カットも筆者）

森　秀雄先生を悼む

絵画部運営委員　鈴木　力

森代表、突然の訃報呆然としています。心の支えを失なった現在、喪失感は益々大きく感じています。

代表は確たる信念の持ち主で日本画壇に先がけ〈あの大会場を創造〉。その為、憎まれ役まで買われ、会場の質向上に苦心されておられました。（皆さんも考えて見て下さい）すぐ目に見えるところから、視えないところまで代表の細やかな配慮。たゞ脱帽のみです。『展示場所が良ければそれで良しではなく、全体を見てどうかが大切。誰れ一人自分の場所など無く、作品の良し、悪しが展示位置を決定する。』が、代表の言葉でした。そして常日頃「気付いてほしいなぁ」とも願っておられました。展示には細心の注意を配慮されており、例えば、表面描写の上手なだけの作品と絵画的に捕えた作品を並列するなど凝った展示。レベルアップ方法など考えておられました。

私に対しては、迷いがあるから見て欲しいと云う口実で「新しい仕事」とは何か考えてみてはとの謎でした。この様な時は、私一人でなく、数名の方々にも、同じチャンスを与えて下さっています。　エイ!!、これは何事。私には強烈なショックで理解に数ヵ月間以上が必要で、どうやら、多視点移動による空間が生み出す摩訶不思議な世界。国内外に全く無かった世界観を感じることができました。

偽りの青空

CHRISTINA WHERE ARE YOU GOING？（AFTER WYETH）

記念撮影

何故、最初は、と、同じ疑問が付きまとう。

数字のミステリーと　不思議な魅力に、心引かれて気になる作品です。2005年、毎日新聞社主催「森秀雄展」の発表作品です。ピラミッドやスフィンクスの前にたたずむ武士の一団の図が描いてありますが意味は全く理解できません。５年後の今、気づき始めた状態です。

日本人としてのプライド、人としての品性が大切である。海外に出た時は……　と数人の方々は耳にしているのですが、一陽会の作品の海外美術館主催による紹介計画が進行中とのこと。作品、記念撮影が制作中には既に今の計画が進行されていたように思い始めている今、現在です。代表は常に我々より遥か先を進んでおられ、私達に大きな力を元気を付けて下さっておられるのです。その矢先のことで、惜しみても惜しみきれない代表なのです。

偽りの青空－SILVER NIGHT（AFTER G SEGAL）

虚と実の狭間の型取り人物と青空を映し出した男女は知性の賜物。それはパロディー。

遥か彼方への広がりは、桃山時代の重要文化財、能装束文様か。　今迄、目にすることの無った斑点の紅と変化、新鮮な驚きに満ち溢れておりました。

「所で、ボクはこの辺りで良いかな…」手本を置いて、こっそり旅立たれてしまいました。

奥様、心よりお悔やみ申し上げます。

奥様は代表を葬る舞台造りにこん身の力を込められ、　中央最上部にスプレーガンを持つ代表を象徴的に現し、白い花のイメージを花屋さんが理解するのに７時間も掛けて、白雲の舞台を創造。入口に中国美術館館長の拡大文を展示。

牌名も優れた業績を上た代表ですから、頑張って「森　秀雄」を守り通されましたネ。

弔辞は林紀一郎先生と村田慶之輔先生が心暖る友への思いと無念な心を語って下さいました。

奥様は多くの弔問の方々に、悲しみを極力押え、立派な感謝の言葉をのべられ、最後のお帰りの方まで、丁寧なお見送りなさっていられた。

葬儀委員長として、献杯をさせていたゞきました。

代表のご冥福をお祈りいたします。　合掌

森　秀雄代表の遺作に見入る人々（写真 棚倉英雄）

「美を愛し、美に生きた男」へ山田君を偲ぶ

絵画部会員　田沼　和夫

昨年突然、訃報を受けた時、驚きと痛惜の念でいっぱいでした。これから、と思っていた矢先の出来事で残念でなりません。改めてお悔やみ申し上げると共に、心からご冥福をお祈り致します。

彼との出会いは、遡ること大学入学に始まります。昭和27年の事ですから一昔も二昔も前の事になります。彼は秩父の出身ですので通学は無理で、大学の創玄寮に入るしかありません。亡友は根っからの実直で温厚な人柄でした。当時の教育制度は旧制から新制度に変わり美術科は一部中学校課程と二部中学校課程になっていました。教員養成課程では単位制で受講するので、合えば一緒に学ぶ事になります。同窓生といっても小中学校のようにいつも一緒ではありません。でも彼とは気が合っていたのか、どうか分かりませんが、２・３回寮に押しかけて泊めてもらった事を覚えています。いやな顔をせず、快く泊めてくれました。その後卒業と同時にそれぞれ別れ別れになり、交流も途絶えてしまいました。それでも年賀状だけは続いていました。再会したのは私が53才の33回展に初入選した時からです。動機は私が銀座の画廊で三人展をやっていた時、来てくれた事に始まります。彼が一陽展に出品し活躍している事を知り、私が出品する切っ掛けをつくってくれた事です。初めて知る会場の作品の内容の壮大さ、力作に圧倒された事をしっかり今も覚えています。彼は一陽会一途に励み、常に前向きな姿勢で画壇で頑張って来ていました。

彼の業績の列挙をみても、その事がよく分かると思います。一陽会での青麦賞を始め、数々の受賞と個展、そしていろいろなコンクールに挑戦してきた活躍が伺えます。先ず埼玉前衛芸術青年作家集団に参加、'77年に現代日本美術展、翌年シェル美術賞展、'80年に日本国際美術展、'97年フランス美術賞展～'01年までに上野の森美術大賞展と、そして'98・'01年には賞候補になり、続いて'99年「風の美術展」ビエンナーレ枕崎展に入選。又、'01年に池田満寿夫記念芸術賞展に、'06年第16回青木繁大賞展（奨励賞）を受賞しました。最後の年に「公募団体ベストセレクション美術2012」展に推挙出品と美術界一途に一生を終える事が出来、本当に幸せ者だと思います。私としてはもう少しお付き合いしてほしかった思いです。

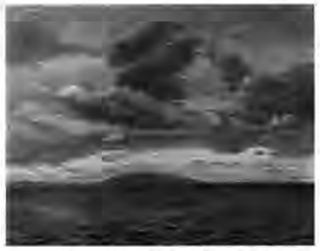
運営委員　故・山田　忠
風渡る一遺された傳言（でんこん）

絵を愛し、常に研究熱心で技術面でもいつも研鑽を重ね、制作に専念して行く男であったと思います。すばらしい朋友を亡くして残念でなりません。彼は今も天国で好きな絵を描き、楽しんでいることと思います。

ありがとう　山田君

平賀先生のこと

一陽　編集子



委員　故・平賀正勝　海景

毎年、一陽展画集の巻末に「入選者都道府県別表」が掲載されているのは、皆さんご存じでしょう。

1996年第42回展から、2013年第58回展まで実に16年間、千葉県が第１位をキープしています。

このことは他県在住の方々には、さほど印象に残らない事柄かも知れないし、「人数が多けりゃいいってもんじゃ無いよ、要は内容でしょ？」なんて皮肉のひとつも云々する御仁も居るものです。

しかるに気鋭の千葉県勢は、毎年受賞者を輩出し、当然、早々と会友推挙になるので、一般入選者数が常に１位を維持し続けるということは、とりもなおさず有為の新人を途切れることなく送り込んでいることに他なりません。

さて、その立役者、指導者の一人が、故・平賀正勝先生なのでありました。門下生のグループ「平賀同門会」は大所帯で老若男女、多士済々、県立美術館で６月に開催される千葉一陽展は、年々歳々活気・熱気に溢れ返っていたものです。

先生は30代の若さで、筆一本で画家として生計を立て、一陽会々友時代に、巴里に遊学・滞在、帰国後会員となり、千葉一陽会の草創期を支えてこられました。2009年からは委員として、更なる牽引力を期待されながらも、惜しまれつゝ旅立たれました。門下の一番弟子と称される畑野昭子さんは、「先生は生れ乍らの画家として、また卓越した絵画指導者として、70年の人生を悔い無く存分に生きられたと思います。今後も門下の人達で先生の意志を受け継いで行きたい」と談話を寄せて下さった。

ご冥福をお祈りいたします。

秋田と私

絵画部 会員　榎　江里子

無性に、一年に数か月間は雪に閉ざされる秋田が嫌いな時期がありました。燦々と光の降り注ぐ、南の地に憧れていた時期です。中学、高校時代です。東京の美大の受験に失敗し、浪人が許されず、已む無く仙台のデザイン専門学校に進学し、手に負えない程の課題に追われながらも、将来は南方に住む事を夢見ての楽しい学生生活でしたが、父の死により、この地に連れ戻されてしまいました。現実を受け止めざるを得ませんでした。あんなに嫌いだった秋田ですが、最近になってフッと思うことがあります。人様に自慢できるようなものではありませんが、私の感性を育ててくれたのは、この地の自然だったのではないか……と。

春、近くの山に遊びに行き、大の字になって草の上に寝転がり、横を見ると一面にスミレの絨毯、空はやさしい青、そこをトンビが鳴いて旋回している。クンクンと犬のように春の香りを嗅ぎまわる。田んぼには、数えきれないほどのオタマジャクシ。夏、どこまでも広がる田んぼの緑、風がその上を通り過ぎていくのが見える。祖母の家の塀の上でヤマカガシが昼寝をしている。池では、シマヘビがカエルをねらって泳いでいる。遠くから、祭り囃子の音。秋、近くの小高い山の上の小さな神社でボンヤリしていると、サワサワと遠くから風がやって来て木の葉を落としていく。拾って見ると、ホントに美しい色。冬、明け方に目が覚め、出窓の障子を開けてみると、近所の井戸の屋根のこんもりと積もった雪が青くて、降っているあられがポンポンと跳ねて、まるで小人が雪合戦をしているみたい。登校時、足跡のない雪が柔らかな稜線をえがき、冬の太陽の光で宝石のように一面キラキラ輝いて、学校を忘れてボンヤリと立ち尽くす。当時、父は県の指導船の通信士をしていて、父が乗った船の帰港時は母に言いつけられて港まで迎えに行ったのですが、港で水平線を見ていると、遠くに白い点が見えてその点が徐々に大きくなり、やがて白い波の上に父の乗った船が現れ、ゆっくりと大きくなり、父が帰ってくるのです。お風呂のない時代、銭湯に行く時、父の背中に揺られて見た銭湯は、黒いシルエットになった山の麓にポツンと黄色い明り。語りつくせない程の記憶の宝箱を私にくれたのは、大嫌いだった秋田の自然だったのではないか……。今、私は心からこの地に感謝しています。

人生赤ちょうちん

絵画部 会員　岩永　勝彦

私の昨年の一陽展出品作は、居酒屋での宴会情景を描いたものである。喜寿を過ぎた現在の老体では酔っぱらって余興にとび出す気力も体力もない。昔の教員仲間と四十年ぶりに再会して、楽しかった昔日を語り合ったのを機会に、是非絵に描いてみたい衝動にかられた次第である。

思えば30歳代に始まった赤ちょうちん通いが現在まで続く画道人生でもあるわけである。下町の呑み屋街を徘徊するうちに、自分自身を含めて、多様な人生の喜怒哀楽が感取出来て興味つきない画題エリアとなったのである。

何故人間は酒に集うのか。日頃の抑圧された心を解きほぐす魔力が潜んでいるからであろう。医学的に言えば、脳に人間の理性をつかさどる部位があり、アルコールが入ると理性がマヒし機能が低下する。飲酒の度合いで思考も行動もかわり、どれが本当の自分なのか分からない。泥酔状態になれば、理性が消え、人間の本性のみが残ることになる。酒は人生をも左右しかねない恐い存在でもあるわけである。しかし「人間は常識、芸術は非常識の世界」とよく言われるように、芸術家にとって飲酒は多少の刺激剤になるのではないかと思っている。

ところで本稿は「絵心」についての随想であるが、岩永は酒に入りびたりの人間と誤解されては不本意なので、日頃の描画について少しのべさせていただく。私の絵の大半は、俳画や素描、水彩の類である。展覧会等での発表を意図したものでは全くない。

農家であるわが家の庭には、小動物や昆虫がたくさん同居している。カエル、トカゲ、ヘビ、アリ、クモなど数十種類は目に入る。年中、さまざまな鳥たちもやって来る。それぞれの生態を観察していると実に面白い。捕食、争い、交尾、産卵など季節ごとに変化していく様子は、驚き、感動の連続である。人間に例えて観察していれば、一層「絵心」を刺激される事象である。

加齢により行動範囲が狭くなった私に、退屈しないで何日でも在宅出来る環境を与えてくれる自然に感謝の思いである。

会員推挙

絵画部

飯田　恭彦

私は、幼い頃から絵を描くことが大好きで毎日楽しく描いてきました。

特に、風景や静物画を好んで長年描き続けてまいりましたが、定年まぢかになり、職場の風景をあらためて観てみると、時代と共に工場の片隅に置かれた、年老いた古い機械が長い年月を経て働いた証しとして、油で黒光りした肌が一段と重厚さを増し、存在感を引き立たせ、「まだまだ頑張れるぞ」と言いたげにしている様子が、現今の私とオーバーラップした衝動が描くきっかけとなり、初めてのモチーフなのに、筆を取る前から心躍る気持ちになったことを覚えています。

また、支部の研究会におきまして、諸先生方の温情ある厳しいご指導・助言が、私にとって唯一の絵画教室であり、絵を描く姿勢と意欲を掻きたたせてくれました。

その結果が、今回の会員推挙につながったものと皆様に感謝・御礼申し上げます。

会員ともなれば今までとは違い、会の企画を推進する任務も課せられます。

これから、心して精進して行きますので、ご厚情の程よろしくお願いします。

今は、毎日絵を描いているひと時に幸せと楽しさと喜びを感じています。

これを期に、今一度気持ちを引き締めて自分なりに「存在感のある絵」を旨とした絵を生涯楽しく描き続けるように、健康に留意し努力して行きたいと思います。

会員推挙

絵画部

上野　ちづ子

15歳で絵を習い始め、デザインの方に進んだ私は当時「日宣美」という商業デザインの黄金時代といえる中で青春を過ごしました。

「田中一光・横尾忠則等」の作品に凄い凄いを連発、感激しながら。

若かったので生意気にも、商業デザインと純粋絵画の違いを考えながら……悩みながらも絵は描いてましたので画家の登竜門といわれていた「安井賞展」も、必ず観に行っていました。そんな折、会場内で1枚の作品が私を立ち止まらせました。とても不思議な絵でした。象のような動物が数個に切断されて檻に入れられ運ばれている様な作品でした。

心が揺れるというか涙が出るというか不思議な「何か心が…」という感情でした。

作家名の下に「一陽会」と書いてありました。

「悩むより絵を描いて【一陽会】に出品してみよう。」と思い、見たこともない、知らない会に翌年出品していました。

入選は嬉しかったのですが、初めて「一陽会」会場に行って自分の居場所ではないと感じ驚いてしまいました。誰から言われたわけでもなく自分で決めた事なので、いろいろな未熟さを思い知らされながらも、あの時の作品から受けた心の「何か…」を自分の作品にも表現できればと思い、出品を続け現在も日々悪戦苦闘の進行形で制作をしています。

今年、会員推挙を受けまして、まだ「何か…」が見えてもいないのに恐縮しています。お仲間に入れていただいことを感謝しまして。ありがとうございました。

会員推挙

絵画部

大西　正雄

確かに現代具象絵画にはある種の儚なさがある。それはデカルト的に言えば我とその外側の対象物を作画の拠り所とする故に、現象の再現という限界を感じるからであろう。だが音楽も又、音という現象の再現なのに大指揮者の録音から受ける感動は唯一無二の物といえる。これはその人の楽曲に対する解釈というものが聴者に確実に伝わるからで、この解釈という言葉の定義を小林秀雄は（問題を）解決することであると示しているが、近年はそれから遠いところで単なる説明程度のお手軽作品が文化面で増加しているのではないか。情報端末やらの進化でその取り扱い方法を略した「トリセツ」という言が流行っているが、これが文化面に及び、易しく描け、上手に見せる等、画一化方向に作品が集約された展覧会が増加し、虚しさを味わされることが多い。音楽で言えば演歌やJポップ等、安直な歌詞と簡単、単純なる伴奏で似非ヒュウマニズムを唱ったワンパターン楽曲の氾濫だ。要するにどれもこれも同じような作品の羅列なのだ。取り扱い説明書的なのだ。造型絵画もこの複雑極る現実と作者がどう対峙するかという認識・解釈が要求される。現代具象絵画はその作者の知性の反映だ。美術を取り巻く諸芸術の状況を分析し、総合的に反芻し、思考の核となる混沌からの英知を抽出したい。

会員推挙

絵画部

北島　英巳

私は、30数年前に都美術館で様々な団体の絵画をみる機会を得た。清新にして、個性溢れる、一陽会の表現に魅力を感じた。その折同郷の絹笠省三先生にめぐり逢い、出品するようになりました。顧みて、構想の煮つまらない、安易な表現態度に気づきました。そこで、何を本当に表現したいのか?自問自答した。大自然の中に

包まれている人間の存在でした。自然からの、とてつもない恩恵と同時に、容赦なく訪れる恐怖です。人間の叡知では計り知れない大自然の偉力です。そんな事を視点にして、造形的な角度からイメージをふくらませてみることにしました。具体的には、エスキースを通して造形的思考を働かせ、試行錯誤を積み上げることにしました。この表現意図と造形性の関係は、これからしばらく追及していく大きな課題です。私は歳を重ねておりますが、めげずに、自分なりに一歩でも前進するように精進して参りたいと思います。

会員推挙

絵画部

笹山　満義

私が一陽展に初めて出品したのが2005年（51回展）でしたから、早今年で9年目になろうとしています。マグリットやポールデルボーの世界に憧れて20数年、2面性から多面性へと私なりに幻想のリアリズムを追って描いてきたつもりです。今回会員推挙の知らせを聞いた時、嬉しさで一杯でした。しばらくしてこれは大変な事になったと正直思うと同時に様々な重圧が大きく内面を占めてきました。

さて、油絵を描き始めて数年後自分なりの内容を模索中、県内の美術館でマグリット展を鑑賞する機会を得ました。その時受けた印象は、まさに私の今まで持っていた絵画観とは違い視覚の世界を離れた非現実的で幻想的な世界であり、矛盾に満ちた世界でありました。例えば絵中の絵であったり・石が空に浮いている絵・空と同化する裸婦・部屋一杯の石のりんごなど、よくも次々と、この様なアイデアが浮かぶものだと感心もしました。これは、一つの絵画のスタイルなのだと改めて認識したのを鮮明に覚えています。さらにその上何かしら不思議な魅力を感じ、心理的な奥深さを感じたのは言うまでもありません。その頃は油絵を描きはじめて間もない頃で、すぐにシュール（非現実）の世界を目指した訳ではなく物を正確に描写する事に憧れていました。現在私の絵の傾向は多分にその影響を受け目指していると言ってもいいかも知れません。しかし今後どのように変化していくかは定かではありませんが、私自身何らかのストーリー性も必要だと思っています。それは詩であり、エッセイであり、童話等であると言えます。それに加えて、意外性をもっと顕著に出す事でもっと鑑賞者の目を引けるものと思っています。ストーリー性を持つ事と、意外性を持たす事とは、前者は内容、後者は絵にインパクトをもたらすと言う風にも考えています。また意外性を増幅させる要因の一つになっているのは、リアリティだとも考えています。もし意外性だけを追求したならば、一時的に鑑賞者の目は引くとは思いますが内容的には、貧しい絵になりやしないかと懸念します。もちろんそこには、メッセージ性も加味したいと考えています。上記は、あくまでも私の当面の欲張りな理想形であり、自分としてもまだまだの感は否めないのですが・・・・・

会員推挙

絵画部

田中　正秋

版画部に20年程会員でおりましたが病を得て退会、版画制作から離れていました。退院後間もなく、つくばエキスプレス浅草駅の壁画（上下線で計240m）と改札口のステンドグラス（3m×7m）の制作を依頼されました。三社祭り、サンバカーニバル、隅田川の桜、花火の4つがモチーフですが、期限も9ヶ月程で結構体力的にも厳しく、絵画制作の毎日が続きました。幸い完成後は、多くの方々からなかなか壮観だとのお声を頂いています。公共の仕事は、日本各地の市庁舎や体育館の壁画など数多く手掛けましたが、どれも寿命は作者より遥かに長く、やりがいのある反面こわい部分もあります。

私の版画は世界各地の美術館や公共の場所にも多数展示されていますが、絵画は美大卒業後少々離れていました。時期を計った様に与えられた壁画の仕事を完成させた事で、体力的にも自信が付き、また手術後10年経過し病院とも縁が切れましたので、これからも版画共々精一杯描き続けて行こうと思います。

会員推挙

絵画部

千野　清和

会員推挙の報告を受けた瞬間、安心感が身体に伝わり腰が痛くなった。ここ数年、新潟県小谷市山古志村の棚田を描いている。棚田との出会いは、山古志村の“あまちゃ会館”に宿泊し、朝がたの出来事であった。雲海の上に棚田を見た。時間が風に乗って過ぎて行き棚田の顔が見え隠れする。まるで、天空の城ラピュタの世界を見た、それが棚田を描くきっかけになった。その情景を観察し表現し豊かな詩情性を盛り込み試行錯誤しながら描いている。特に今回は暑く、省エネ対策で部屋は暑く、暑くなればなるほど大作制作に意欲が湧いてくるのは、不思議である。自分自身の空（カラ）から脱却し古い物から新しい物への創造性が求められた。暑さの中で思考が薄れる中で小さくつぶやきながら、素材と格闘した。微妙な色の変化が面白くモザイク模様を作りロマンチックに仕上がって行く。展覧会は、絵を描くための自己啓発の1つになっている。この機に自分の情熱が“あやまち”とならないように燃やしていく覚悟です。

会員推挙

絵画部

永井　泰子

19年前に一陽会の展覧会を友人の紹介で見せて頂き、諸先生方の繊細な絵と他の会では見られなかった品の良さに一目で魅せられ・・・素人絵描きから始まって19年間出品でき、飾っていただけてこられましたのも、諸先生はじめ会の皆様の温かいお心とご指導のお蔭さまと感謝いたしております。架空の世界を描き常に迷いの中に居りますがこれからも夢の世界を追い続け頑張って参りたいと思っています。会員推挙ありがとうございました。

会員推挙

絵画部

南部　聡

月のそれとは違い、地表には水があり、風があり、生命体があり、乾き・晒され・流され・積み重なり・削り取られる。上空から地球を撮影した衛星写真や航空写真に見入ることがあります。山脈の起伏・蛇行した河川・侵食された海岸線など自然に生み出された地形はもちろんですが、無機質な建物が密集した都市・コンビナート群や軍事施設でさえも、大地にできた生命の営みの痕跡としての自然を感じます。

自分自身の肉体と精神を自然の中の一部として、どのように表現できるか試みを続けていきたいと考えています。

会員推挙

絵画部

畑　透仁

私の初出品は第30回でした。

その当時は雪景色を描いていましたが、スランプに陥りいろいろと題材を変えました。「雪景色」から「円柱の建物」へ、ある時、錆びた門の奥に見える風景に何となく心を動かされ、守り続けた手前の世界と錆びた門の向こう側の変わり果てた世界のギャップ・面白さを描こうと「錆びた門」へ変わり現在に至っています。

絵を描く事の面白さが、いろいろな苦労を忘れさせてくれました。

できの悪い私を、見捨てることなく、優しくまた厳しく指導して下さいました諸先生、暖かく見守ってくれた先輩や仲間に、厚く御礼申し上げます。

これからは会員としての自覚を持ち奮励努力したいと思いますので、今後のご指導の程よろしくお願い致します。

会員推挙

絵画部

山本　映子

会員推挙戴き有難うございました。

初出品以来なかなか納得のいくテーマにも出合えず、不安な絵ばかり描き続けていたような気がします。

そんな時家にあった古いトランクを見つけました。数十年前に亡き母が使った物と知り、母を懐かしく思い出して見ていたところ、此のトランクには当時使っていた人の思いが、いろいろと詰まっている。そんな気持ちを絵に表現できないかと思い古いトランクを描くきっかけになりました。形や色も様々で傷やシミが当時に使用した母の思い入れの一端を伺い知ることができる。

その心情を想い浮かべ時には苦笑しながら楽しんで今は描いています。

そんな愛おしいとランクを私は暫く描き続けたいと思っています。

会員推挙

彫刻部

染矢　義之

30歳前半の頃、完全に行詰り彫刻を作れない時期がありました。版画や絵画の制作は続けていましたが、そのうちに周りから「染矢は彫刻やめたのだね」と言われることが時々あり、やめたつもりはないのですが作ってはいない現状の為、これがとても心に辛く響くのでした。

ある職場で彫刻部会員の矢野先生と同僚になることがあり、先生から一陽会に出品しないかとお誘いをうけました。当初はお断りしていたのですが、招待券を頂いていたので展示は見続けていました。そうするうちに彫刻を作りたいという気持ちが沸々と湧き上がり、意を決し制作を再開し出品しました。ただ、かつての制作スタイルを復活させるのではなく、当時否定した考え方を肯定し、昔習った基礎的なことを思い起こし、初心に帰るような気持ちで行ったのでした。それから月日が経ち、このたび彫刻部会員に推挙していただくことになり、うれしい気持ちと共に感謝の念に堪えません。それはなによりも彫刻家として蘇生させていただいたことに。

会員賞

絵画部

木村　保夫

明けて3月、昔風には傘寿となる私、一陽展初入選は1959年5回展ですから、このたびの58回展会員賞は、正に50年の研鑽の賜物として有難く拝受致しました。この処、私の創作は過去と、今の己の心に響く異質なものの構成によるものですが、結局それは私の過去に由来するものだと思います。軍国主義と統制の時代に育った私の純粋愚直な小学6年の体感です。1945年、極端な物不足と飢餓の中、3月の東京大空襲に続いて、B29の無差別大量殺戮は地方都市に及び、8月1日夜、私の住む長岡は大量の焼夷弾投下で焼滅、6日広島、9日長崎と人類初の原爆投下、惨憺たる中、15日昼の玉音放送で漸く終戦。それを境に日本は個人尊重の民主主

義に大転換。昨日までの軍国少年は180度転換の価値観を強いられ、混迷の中をさ迷うばかりです。然し自由な解放感と共に、多少とも衣食が潤いはじめると世間の活気が戻り、芸術活動も盛んになりました。貧弱な家計では更に画道に専念する事など出来ず教員になりましたが、「美術」の時数だけでは給料に足らず、何でも屋に甘んじた教員絵描き3年目、幸運にも出会ったのが、あの「清新にして深奥なるものの創造に勉励し・・・・」に始まる一陽会宣言です。甚く感銘し、以来お世話になり通しです。あの極限の私は、物は創り出すもの、という信念を得たようです。想像・・・・延いては創造の喜びは人間固有の活力の源泉です。私は10年間程、人の生命の証としての遺跡に、現代文明禁断の華としてステルス機の影を重ねて描きましたが、これも私の潜在意識でしょう。然し、東日本大震災と大津波、更に底知れぬ原発事故に、人間は新たな覚醒を求められています。私は足許の大地を見直して、そこに6千年もの間、長岡は馬高の丘の地中で、叫び続けたかに見える縄文土器を想起し、更に新たなキトラ古墳の助力を得て構築したのが、この度の「邂逅・火焔土器」、潜在していた大転換の驚きと感動を込めて。有難うございました。

★誌面の都合上、以下の方々は顔写真の紹介とさせていただきました。

会員賞

絵画部

宇留野信章

岡崎　昭夫

尾島　守

彫刻部

田沼　和夫

西山　恭伸

安田　操

北村賞

小畑　恭子

損保ジャパン美術財団賞

茶畑　顕子

野外彫刻賞

小林　達也

青　麦　賞

絵画部

岩田　明美

今、見慣れた家々が夕日色に染まり、輝いています。

ちょっぴりの感傷と、安堵の色を混ぜた空が少しずつ夕闇に包まれようと・・・。

「この世界は美しい！」

その魂のひとかけらでも、キャンバスに描いてみたいと願います。

春風にいっせいに萌えだす木々。

灼熱にあえぐ街を、なお威嚇しているような入道雲。

ススキが風にうなずく草原・・・

・・・絵との出会いで一層、輝きだしました。そして、それは神様からのご褒美だと、常に感じています。

私はここ数年、流木を描いています。

流木を見ていると、一生懸命、根を張りながらも、黙々と、淡々と生きていたのだろうなぁ・・・と想像出来ます。

そして、その様を少しでも表現できたら！と切望します。とても難しいのですが？？？。

この度の「青麦賞」受賞はあまりに大きな出来事で、いまだに違う次元で起きた事のようです。

この大きな喜びを力に、「かけら」を探し続けて行こうと思います。

そう・・・「この世界は美しい！」

青　麦　賞

彫刻部

岩壁　善兵衛

新人の岩壁です。57回一陽展に初めて出品した「キューブＦ」で奨励賞を受賞し、今回の「珠＝888」で栄えある青麦賞をいただき嬉しい限りです。青麦賞の命名は丹羽文雄と聞き、私の好きな作家の一人でもあり身も引き締まる思いです。

私自身美術的な教育を受けていませんし、彫刻の基本的技術もデッサン力も持ち合わせてはいません。故高嶋文雄先生の回りでうろうろしたり、作品の運搬の手伝いなどをしていました。過去にも何点かの作品を作り、素材としての石の魅力に惹かれていました。

球体は最も基本的な形の一つです。この作品は太陽・地球であり私自身でもあります。珠の中に彫った四角の内部は磨いてあり、外側の表面には鑿跡が多数残っています。私自身内面は磨いていたいし外側は傷だらけです。表題の「珠＝888」の888は直径888ミリから採りました。

これからも石という素材の持つ存在感、質感を大事にして制作して行こうと考えています。私たちのＨＰ「七沢彫刻工房」は、http://www5d.biglobe.ne.jp/~nabel/nanasawa/です。ご意見等を聞かせていただければ幸いです。

会　友　賞

絵画部

井上　峰子

今まで私が描いて来た作品の中で、自分でも一番好きな今回の作品が評価されて、とても嬉しく、晴れがましい気持ちでいっぱいです。トランクを描き始めて20年近くなりますが、まず変わった事は、写生的な描き方から心象的になった事です。97歳で亡くなった私の父の世話をしながら描いていた頃は、作品作りに集中できず、なるべくシンプルに描き上げようという事ばかり考え、できた作品は単純この上ないというものばかりでした。アトリエの隣の書斎から顔を出した父が、制作中の私のデッサンの狂いをちょこっと指摘してくれたのが、今は懐かしい思い出です。その父が現役の頃、赴任先からの引越の度に使っていた、この大きなトランクには衣類の他、小さな家具まで入ってしまうので、いっぱい詰め込んで、大活躍してくれていた様です。そのトランクに、私はとても愛着を感じ、永遠にそばに置いておくつもりです。このトランクを表舞台に出させてくれる場を下さった一陽会に、感謝致します。

会　友　賞

絵画部

高橋　章子

釣り歴30年以上の主人が、「海水の温度が年々上がって来ているので、たぶん大雪になるだろう。」とか、「カマキリの卵が木の上に方に付いているので、今年も大雪だろう。」とか言うのを聞いて、鬱々な気分になっていました。案の定、昨年は12月から根雪になり、朝にはとんでもない別世界になっていたり、いつ収まるとも分からない、大きな余震が頻繁に来たり、これからどうなるのか不安な日々が続いています。それでもだんだん日が長くなり、春の気配が感じられる頃には、私の一陽会出品用の絵にも、光が差して来ることを願いながら、一筆一筆、心を込めて描いていきたいと思っています。

この度の、偏照－鵜ノ崎（2012）の会友賞の知らせが届いたのは、一番上の兄の葬式の前日でした。嬉しいけど悔しいような、只々涙でした。

父は早くに、母は12年前に亡くなり、本当の父のような存在でした。お医者さん、看護師さん等に、私の今回出品の絵の写真を見せて、自慢していたようです。元気なうちに知らせたかった。「こんなにすごい賞をもらったよ」と。

６年前、自己流のストレッチをして歩けなくなった私は、一時はどうなるかと落ち込みましたが、それも徐々に良くなり、「私にはやりたいことがあったはず、このまま一生終わりたくない」と強く思い、夢は「油絵を描く画家」だったと思い出したのです。それから５年、平凡な主婦が、何だかとんでもない、場違いな所に足を踏み入れた感じがしつつも、すっかり油絵に取り付かれているのです。

夢をあきらめず、こうして好きなことが出来ている環境に感謝し、今日も家事を早く済ませキャンバスに向かっているのです。義妹が友人が私の絵を見て、涙を流してくれたことを忘れることなく、これからも自分らしい絵を描き、生き生きとした人生を送れたら、どんなに幸せでしょう。

会　友　賞

絵画部

楠森　道剛

ペンで制作を始めて、気がつけば10年近くになりました。先日、何気なく小学生の頃の卒業文集を読み返してみると「将来は、沢山の人を感動させられる絵を描く画家になる」などと、とんでもない「誓い」が書いてありました。・・・ビビリました。

20年前の僕は、とてつもない目標を持ってたらしいです。「バカだなぁ・・・」と思うのと同時に、少年の頃の夢を未だに追い続ける事が出来ている「今」が、とても有り難いと強く感じました。

一陽会初出品から今まで、かなり迷走して来ました。心が折れそうになる事も沢山ありました。でもその都度、一陽会の先生方は厳しくも優しいご指導だけでなく「どうすれば僕の絵が良くなるのか」を、僕と一緒に悩んでくれました。涙が出るほど嬉しかったです。

沢山の先生方のご指導のお陰で、会友賞を頂く事が出来ました。そして、一陽会の皆様が励まして下さったお陰で、僕は小学生の頃の「誓い」を破る事なく、その夢に向けて歩んでいられます。本当にありがとうございました。

20年前の僕が掲げた「誓い」への道は、まだまだ遠い道のりですが、今回の会友賞を励みに、焦らずじっくり進んでいきたいと思います。

会　友　賞

絵画部

宮坂　和子

工業地帯の特殊な建物に惹かれて、この数年モチーフとして制作してきました。

化学物質系やオイル系の臭いが入り混じった騒音域に近づくとその活気に足元から心臓にズーンと響く高揚感でワクワクしてきます。現場でウロウロしていると不審者扱いされたこともありました。懲りずに警備門の死角からノゾキミをしたりと昨今の工場見学ブームにも助けられて、取材が楽しみの一つとなっています。

技術の進歩によって快適な日常の原点とも云える活気に満ちた景……、かたや環境破壊につながる負の遺産となりかねない危うく混沌とした様……どちらの領域とも超えた世界……等々、イメージが交錯して表現するこ との難しさを痛感しています。

今回は岩の上に工場の構築物を据えて、異質な空間を作ってみました。筆力の及ばない焦りと苦しみの連続でしたが、悩んだ分だけ漠然とですが何かをつかめたような気がします。評価をいただいたことを励みに、もうしばらくこの世界を追ってみようと思っています。

会　友　賞

彫刻部

飯沢　公夫

夕食後、裏山の雑木林に出かけた。ちょうど満月の夜で、昇り始めた月が天空のまだ低い位置で白く輝いている。昼の太陽に照らされた雑木林は緑や茶のグラデーション以外にも小さな花の彩りがそこかしこに目に入り、たくさんの色を楽しめるが、今はモノトーンの世界である。昼間降った小雨のせいで、地面に積もった落ち葉は濡れているようだ。斜面にきて、はっとした。白い月が地面にたくさん輝いている。濡れた落ち葉に反射して、いくつもの白い月が地面に張り付いている、天空の満月は一点を動こうとはしないが、地面のたくさんの白い月は私の動きに合わせて、ゆらゆらと地面を徘徊する。体を木にもたれ掛け、動きを止めようとするが、月の動きは止められない。きっと、落ち葉の下に棲んでいる小さな生き物たちが、月を動かしているに違いない。そう考えると、総てに合点がいき安心した。その瞬間、月に死の香りを感じた。

「九つの月光」は、そんなある雑木林での記憶から表れたイメージである。

支部 & グループ活動報告

東　京　支　部
TOKYO

2012年度の活動　2月～2013年1月

■東京支部展　4月25日～30日

●東京都美術館（上野）2階第4展示室

本年の支部展は都美術館開催となり、展示会場は壁面・床スペースとも広くなり、絵画・彫刻ともに本展規約サイズとし、2点出品者も多数あり、彫刻は熱意ある特別出品者の支援も頂き、来場者から賛辞の言葉も多く盛況でより充実した支部展になりました。

◦出品状況

絵画67点、版画19点、彫刻20点

◦受賞者（本年の支部展より公的表示の受賞者を選出する規約を設定しました）

東京支部一陽賞　田中正秋(絵)

〃　特待賞　永井泰子（絵）、池田有希（版）

〃　奨励賞

太田信三、大谷良一、萩原和雄（絵）

飯沢公夫、染矢義之、三好美奈子（彫）

マルオカ賞　千野清和(絵)

東美賞　石川敏夫(絵)

■研究会　4月25日

午後展示会場にて一般・会友の出席者を主に作画の内容を尊重した講評会を行う。

指導・助言は委員、会員の先生方が担当。トークの交流により指導と親交を深めた研究会であった。終了後懇親会会場にて受賞者の表彰式と都美術館開催展を祝い合った。

2013年　支部活動

■東京支部展　4月18日～4月23日

東京都美術館（上野）　◦日程

搬入日　4月14日(日)　am10:00～pm16:00

地下3階第3作業室B

4月18日～4月22日　am 9:30～pm17:30

4月23日（最終日）入場am14:30まで

pm15:00閉会　作品搬出

2014年　支部活動

■東京支部展　4月17日～4月23日

東京都美術館（上野）

（2013年の支部展と同会期となりました）

■2013年1月19日の支部役員会にて役員の確認と変更者を下記に決定しました。

支部長　棚瀬修次

事務局　杉山　司（絵）、石黒　功（彫）

宇田幸正（絵・ホームページ担当）

記　録　安田　操（彫）

総　務　田中知佳子（絵）、武田守弘（彫）

安田　操

東京支部展担当　高岡　徹（渡部　貢、池田美津恵、小林達也）

会　　計　吉村雅利、千野清和

会計監査　石黒　功

渉　外　　沢　オイ、小松富士子、滝川鯉吉

東京支部員の活動

■個展

●田中正秋展　3月1日～31日

Plarade of Festivals

LeQ.uine Gallery テネシー州ナッシュビル U.S.A.

●沢　オイ　展　May 15～June 2

VIRIDIAN ARTISTS. A CONTEMPORARY ART GALLERY New York

●玉田健二展　5月28日～6月2日　画廊るたん（銀座）

●石井悦夫個展　7月23日～29日

スパンアートギャラリー（銀座）

●高岡　徹個展　12月10日～15日　光画廊（銀座）

■グループ展・その他

●フラッグアート展　2月13日～18日

ギャルリー志門（銀座）　小松富士子

●現代抽象作家展－surprise5－

2月17日～29日　ギャラリー絵夢企画

抽象作家27名による表現（新宿）　棚瀬修次

●ミモザ展　月27日～3月3日

竹川画廊（銀座）　伊沢良子

●田中　修さんをしのぶ会展　3月19日～24日

地球堂ギャラリー（銀座）小松富士子、棚瀬修次

●抽象作家によるMyシュールリアリズム展

4月9日～14日　ギャラリーG.K.　棚瀬修次

●青木　繁「海の幸」オマージ展

東京展　6月11日～16日

ぎゃらりいサムホール（銀座）

館山展　6月26日～9月2日

渚の博物館（千葉・館山）　棚瀬修次

●第15回　綺羅星展　7月7日～14日

千駄木画廊（文京区）　石井悦夫、棚瀬修次

●日本ガラス絵協会展　7月10日～19日

gallery一枚の繪（銀座）　高岡　徹

●絵夢コネクション2012　7月12日～18日

ギャラリー絵夢（新宿区）　棚瀬修次

●第36回キリスト教美術展　7月18日～29日

銀座教会東京福音会センター　鹿島なおみ

●Friend〔フレンド〕展　8月30日～9月5日

ギャラリー絵夢（新宿区）　小松富士子

●日仏現代国際美術　2012年選抜展

9月25日～30日　招待作品　棚瀬修次

大森ベルポートアトリウム（品川区）

●2012CAFネビュラ展　11月7日～18日

埼玉県立近代美術館　小松富士子

●17th. Ega版画工房exhibition　11月19日～25日

ギャラリーくぼた6F　坂口かほる

●ギャラリー暁　開廊記念PARTⅡ（銀座）展

〈絵・と・せ・と・ら〉　10月21日～27日

企画／美術評論家・中野　中氏　棚瀬修次

●ギャラリー暁　開廊記念

企画／美術評論家・赤津　侃氏

「絵画・平面　現在と地平」展

10月29日～11月3日　棚瀬修次

●錦秋展　11月8日～13日　ギャラリーK（越谷市）

幡谷フミコ、阿部知暁、杉山司

棚瀬修次（鹿又保子）

●二人展　'12年1月2日～"13年1月6日

Mingei International Museum

カリフォルニア州サンディエゴU.S.A.

森　義利氏と二人展　田中正秋

●日本ガラス絵協会展　'13年1月7日～12日

井上画廊（銀座）　高岡　徹

●MONO・MONO展　1月14日～19日

ギャラリー暁（銀座）　棚瀬修次

●第21回新春現代作家小品展

1月16日～26日

千駄木画廊（文京区）　石井悦夫・棚瀬修次

●PREMIER STAGE展　1月21日～31日

STAGE－1－銀座　棚瀬修次

●一麦会　第40回油彩作品展

1月21日～27日　ギャラリーくぼた（京橋）

加藤恵子、山田幸彦

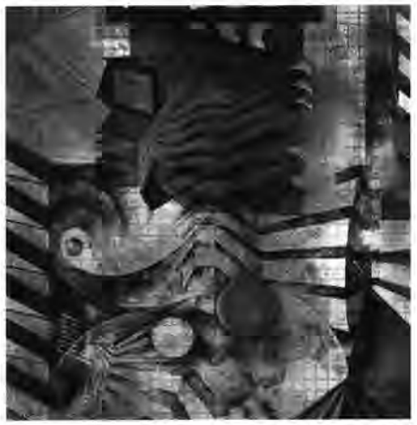
（棚瀬修次　記）

〝東と西のかけはし〟

絵画部 運営委員 沢 オイ

2012年５月15日から６月２日まで、３年ぶり12回目となる私のニューヨーク個展が開かれた。

振り返れば1960年代、恩師でグラフィックデザイン界巨匠原弘主任教授が、大学副手の私に勧めたのが〝異文化の中でデザインとアートを見つめ直せ〟。そこで1968年画家の母（T.F.）とマンハッタンW73丁目のアパートで暮らし、私は美術学校で銅版画を学びながら広告代理店で働いた。その年、57丁目やソーホーの有名画廊数軒から、２年又は３年後にT.F.の個展を企画したいとの申し出があった。しかし当時の私達には２～３年は待てず、結局すべてお断りしてアメリカを離れた。自由なふたり旅でヨーロッパ各地を巡り、美術館や画廊を訪れて帰国した。その後70年代後半になって彼の地での発表を考えた私は、T.F.と私の作品スライドとポートフォリオを携えて再び渡米。多々ある画廊と交渉の末、選んだのがヴィリディアン画廊である。この画廊で1980年に初めて個展を開いて、今回で12回目32年を経過した。



Colleage Drawing on Film and Paper

●画廊仲間とのコミュニケーション

2012年10月末日、大型ハリケーン〝Sandy〟がニューヨークを襲った。ディレクターと被害を受けたアーティスト達は、画廊所属の私達全メンバーに刻々と現状報告を送信。被害の大きさは目に見えるように伝わってきた。私は毎日返信に時間を費やしながら、東日本大震災時、画廊メンバーから私と日本を心配して届けられた多くのメールを思い出した。Sandyの３日後、「未だ停電。照明、エアコンその他使えず。次週からの次の展覧会搬入不可、開催未定につき現在開催中の個展を続行する」とディレクターのメールに続き、「日本からの沢オイ個展時に天災がなくて良かった」と被害を受けたニュージャージーに住むアーティストのメッセージ。N.Y.よりの英文メッセージは短くても内容が強く心に響く。

●災難そして解決

異国での個展開催時、災難がいつやってくるか予測できない。1993年（一陽会会報№26に記したが）８回目の個展は３月だった。私が乗った日航機はデトロイトで給油後、シカゴ空港に着陸。スイスホテル１泊の後、直行便で13時間程度で到着するはずのニューヨークへ、成田出発後約42時間でようやく着いた。それは今世紀最大の寒波として名付けられた〝STORM CENTURY〟の雪嵐でケネディ空港が閉鎖されたからだった。翌陳列の日、豪雪で作品輸送トラックは大幅に遅れ、画廊ビルの作品用巨大エレベーターは動かず……。だが彼の地のさまざまな人達の多大な協力を得て困難突破。無事陳列は完了し、初日を迎えた時の感動は、決して忘れる事が出来ない。

その後すべてが順調だった。90年代半ばまでは船便で、展覧会初日の２ヶ月半前に自宅スタジオを離れていた作品群は、航空便で輸送する今、たった３週間前に送り出せば通関を終えて搬入指定日に画廊に届く。

が、2012年、32年目にして経験した事のない難問題が、作品発送の最後に待ち受けていた。「テロ回避の為、N.Y.発着のすべての航空会社から『個人が輸出する大型貨物は一切受け付ける事は出来ない』と断られ、沢オイN.Y.個展の長い実績も一切通用しない」と、N通運担当者がスタジオを訪れ、悲痛な表情で詫びた。開催期日から逆算して、この時既に時間の余裕はなかった。しかしこの差し迫った窮地は、美術関係の財団法人事務局長の理解に満ちた協力に助けられ、画廊への大型貨物は無事に旅立った。そして何事も無かったように、例年通り初日を迎える事が出来た。

●西と東、世界のかけはし

レセプションの日、南はフロリダ、北はカナダ、そして合衆国の各地から、遠路など気にもかけず駆けつけてくれたコレクター、アーティスト、友人達。「新作を楽しみにこの日を待っていた」という彼等との出会い、再会は、いつもながら私の宝物だ。特にボストンからのG夫妻との再会が嬉しかった。G氏は2010年第７回沢オイ藤井多鶴子とアメリカの仲間たち展（於・オンワードギャラリー日本橋）に出品し、夫妻で来日したわが画廊メンバーのひとり。彼が〝1980年ノーベル科学賞を受け、その後アーティストに転身〟した人物である事をその時初めて知った。

わが画廊メンバーは人種の坩堝（るつぼ）であるのみならず、その職歴の深さ広さも驚きに満ちた宝庫である。自由闊達な精神の下、発想、表現、メディア等世界にはばたき続けるヴィリディアン画廊のメンバー、一陽会の仲間と共に、東と西、世界のかけはしでありたい。

写真は2012年5月17日のヴィリディアン画廊のレセプションのスナップ

VIRIDIAN ARTISTS
A CONTEMPORARY ART GALLERY
548 West 28th Street,6th Floor New York,N.Y. 10001
Tel/Fax:212-414-4040

2012年～2013年2月まで編集デスクに届いた情報の中から選りすぐった展覧会、他。ピックアップする基準…？は話題性優先です！各支部、グループ活動報告と一部重複があります。

公募団体ベストセレクション美術 2012

東京都美術館　5月4日～27日

一陽会作家の作品についてのアーティストトークを担当した細川尚運営委員。彫刻の土井敬真会員は自作の木彫『自刻像』について語った。

森　秀雄 運営委員

鈴木　力 運営委員

細川　尚 運営委員

山田　忠 運営委員

小松正司 会員

土井敬真 会員

復興への息吹き　大地の祈り　五十嵐二朗　小泉智英　二人展

4月24日～5月13日
須賀川市立博物館

運営委員五十嵐二朗先生ゆかりの地、福島県須賀川市の企画による、日本画家小泉智英氏との二人展。東日本大震災、原子力発電所事故による放射能汚染など復興に取り組んでいる市民の心の癒しに役立ちたいとの趣旨で開催された。

「宇津峰・阿武隈川」20号

―美しい驚き― 泉谷淑夫展　3月21日～27日　高島屋横浜店

運営委員泉谷淑夫氏の同会場では8回目の個展。回を追う毎に話題性も高まっている。150号～ミニアチュールまで40点の展示。鑑賞者が途切れることがないとの画廊担当者の言に、さもありなんの感。一陽会の希少なシュールレアリズム派の一人。

「三つの時代」50×100㎝

桝田律子　企画展　Season

2月26日～3月11日「アートボックス152」招待作家
西田美術館

富山県関係者の新進作家を個展形式で紹介する同美術館のシリーズ企画。大作中心に20点を展示。色彩が吹き出す、自然が秘めたエネルギーを感じさせる。

ギャラリートークで自作について語る桝田律子会友

平成24年度　富里市芸術鑑賞事業
濵田　清の世界～玩具と枯草の心象景～

7月13日～29日　富里中央公民館1階ロビー

運営委員濵田　清氏の大作中心に自選した、氏近郊の富里市による企画展。1983年から8年、ほぼ毎年安井賞展の常連作家として脚光を浴びた「遠い日」シリーズを一堂に展示。近親感、郷愁観で老若男女、誰でも瞬時に画面の中の玩具と一体化してしまう…、ノスタルジーの極致と云っても過言ではないだろう。

「遠い日（凧）」130号

ふたりの造形　齋藤久子×大場吉美

6月13日～24日
金沢21世紀美術館
市民ギャラリーB

運営委員大場吉美氏と夫人齋藤久子さん（造形作家）の夫婦展。現代アートの重要拠点となっている同美術館のディレクションにも携りの深い夫婦のコラボレーション。

中村義孝展　―進化するかたち―

8月26日～9月8日
東海ステーションギャラリーA

運営委員中村義孝氏の近作による企画展
人体をテーマに具象彫刻によるヒューマニズムを追求する…物語性のある空間構成に独自の芸術性を盛り込んで行く。

第31回損保ジャパン美術財団選抜奨励展

3月3日～4月1日
損保ジャパン東郷青児美術館

「オーディエンス賞」来館者の人気投票による立体部門1位=安田操会員

「はるかな子守唄」

第5回信州伊那高遠の四季展

7月28日～9月2日
信州高遠美術館

山口陽子会員が奨励賞受賞

「春のなごりII」

前田　睦会員の作品と桂　由美氏

17th 日本の美術 全国選抜作家展

2月23日～26日
上野の森美術館

プライダルファッションデザイナーの桂氏、エッセイストのF・モレシャン氏、他の審査員の選評が話題となる。

国際的に活動、制作する
阿部知暁会員の絵による39ページの絵本

2012年4月1日発行
株式会社福音館書店
〒113-8686 東京都文京区本駒込6-6-3
販売部　03（3942）1226
編集部　03（3942）6016

日本ガラス絵協会展　7月10日～19日　ギャラリー一枚の繪、一陽会出品者5氏

石川三知代 会員

古賀敦子 会員

加納勝子 会友

川口文子 会友

高岡　徹 運営委員

画廊企画スペース45°展

11月29日～12月4日　画廊ジェライ

委員
福田利明

会員 玉田健二個展

5月28日～6月2日　画廊るたん

会員 古野恵美子個展

5月10日～16日　京阪百貨店

会員 山田久子個展

10月1日～6日　銀座井上画廊

第3回　会員 垣内カツアキ富士の四季展

9月10日～11月30日　伊那アルプス美術館

会員 福家省造展

7月24日～29日　アートスペース東山

美術評論家　赤津侃企画
会員 田邊光則展

7月16日～21日　ギャルリー志門

会員 秀島有子個展

イタリアの風景　一陽展出品作品+α
11月7日～12日　ギャラリーモナ

21世紀空間思考展

7月25日～8月7日
日本橋三越本店6階
アートスクエア
一陽会彫刻部会員3人が出品。
存在感で魅せる。

伊藤正人
「合掌」H21 W60 D21

染矢義之
「内包43」H42 W15 D14

矢野　真
「銀河鉄道の夜」H31 W40 D40

ギャラリー金巴里企画 個展シリーズ（千葉）

同画廊のオーナー小沼良男氏による一陽会作家の企画個展は2011年の岡村順一会員にはじまり4人目となる。オーナー夫人は一陽会々友の小沼由理子さんです。

3月20日～25日
会員 **小嶋英子展**
「南の風」F3

4月17日～22日
会員 **大久保綾子展**
「明日へ」P20

11月6日～11日 ―水彩と素描
会友　**佐々木英子個展**

「奏でる」P20

支部 & グループ活動報告

（14ページからのつづき）

関　西　支　部
KANSAI

（2012年２月～2013年１月）

■展覧会

●第50回記念関西一陽展　2012年3月13日～18日
大阪市立美術館

＊50回展記念企画として，支部会員による「自己を描く」展を併設。支部の委員、会員、会友45人が自画像を交えた個性豊かな表現で壁面を飾り、好評だった。

＊また、「関西一陽展50回のあゆみ」及び、関西支部の活動を記載したパンフレットを作成、出品目録と併せて来場者に配布した。

＊初日に会場において出品者の合評会（ギャラリートーク）を実施し出品者が多数参加。支部会員による一人ひとりへの講評は励みになった。

＊初日夕刻より、授賞式と懇親会を開催。受賞者、初入選者からの抱負も聞かれ、盛況だった。

＊50回を機に、さらに、出品者が増えることを望みたい。

＜出品状況＞　支部会員　絵画　69点　彫刻７点
入　　選　絵画　87点（50人）
　　彫刻　４点（３人）
入場者　2832人

＜受賞者＞

関西一陽賞	妹尾佑介（絵）
大阪市長賞	澤田貢三（〃）
大阪市教育委員長賞	今浦　稔（〃）
ホルベイン賞	三好利治（絵）
奨　励　賞	池田泰子　桑田雅子　竹原喜久郎
	田坂奈美子　田渕幹夫　濱上寛司
	福井建彦　藤原加奈子　水谷浩三
	（以上、絵）
50回記念会員賞	大東明宏（絵）
50回記念会友賞	豊岡知世枝（〃）

＜関西一陽展ギャラリートーク＞

●2012一陽会関西作家展　6月１日～５日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー

＊昨年に引き続き神戸での開催。20号～50号までの作品を一人１点ずつ展示。鑑賞者も多く、好評。

【出品】（絵画）

安孫子百合　泉谷　淑夫　榎本紀代文　大西　正雄
大東　明宏　奥村　佳弘　尾島　　守　川辺　嘉章
楠森　道剛　古曽　成樹　小松　正司　佐野　儀雄
下原　知子　墨川　廣徳　隅田　博美　宗　　保江
高孝壬津子　たつみゆうこ　辻本　光彦　土井　　稔
豊岡知世枝　中田　絵里　永田　啓子　新村　則一
西浦まゆみ　西尾　昭子　西谷のり子　西山眞理子
橋本　紀夫　廣門　幸三　福島　涼子　福家　省造
藤本　元美　古川　晶弘　古野恵美子　松村　一夫
三阪　雅彦　岬　　和男　水谷喜美子　三村　恵理
宮口　　観　山下　潤志
（彫刻）　鍬田　和見　津野　充聡　前川　芳輝

●第58回一陽展＜大阪展＞　10月23日～28日
大阪市立美術館地下展覧会室

＊絵画115点　版画3点　彫刻 11点の展示

巡回作品	絵画・版画44点	彫刻3点
関西支部会員作品	絵画・版画55点	彫刻7点
関西の入選作品	絵画　19点	彫刻1点

＊入場者　　4028人

＊巡回展にふさわしい、大作に応じた展示を行い、充実した展覧会になった。

＊初日の懇親会に、細川委員、濵田委員が出席。会場でのギャラリートークを併せて、作品の講評などをいただいた。

＊入場者数が、4,000人を超えた。

＜受賞者（関西支部関係）＞

特　待　賞		妹尾佑介（絵）
奨　励　賞	坂本真佐子	田渕幹夫（〃）
会　員　賞		尾島　守（〃）
会員推挙		大西正雄（〃）
会友推挙		福井建彦（〃）

■2012年度の支部行事

●事務局会議

＊支部会議のおよび展覧会の前に随時開催

◦１月15日・３月11日（関西一陽展陳列担当）
◦４月28日・９月29日・10月22日（一陽展陳列担当）
◦11月24日

●支部会議

◦５月13日　第58回一陽展諸準備、発送事務
　　関西一陽展反省など
◦９月16日　第58回一陽展出品作品の把握（下見）
◦10月８日　一陽展＜大阪展＞諸準備、発送事務
◦12月２日　決算総会（第49回関西一陽展発送事務）
◦2013年１月20日　年度当初総会・新年会
　（年間計画、予算、第50回記念関西一陽展準備など）

●研修会

＜一陽展に向けての作品講評会＞
８月19日　エル・おおさか

＊一般出品者、会友10数名の作品の講評を行い、出品に向けての意欲が高まり、結果を残すことができた。

＜美術鑑賞会＞
１月11日　姫路市立美術館・国宝姫路城

＊雨の中、15人が参加。美術館では，モローやルドンをはじめ、象徴派の作品を鑑賞。大がかりな改修工事中の姫路城も、めったに見られない光景で、楽しめた。

＜一陽会関西支部の皆さん＞

■グループ展

●備後一陽会二人展　３月27日～４月１日
広島県府中市・備後芸術の館　来夢来人
国見縫子　　岡田　誠

■個展

●美しい驚き・泉谷淑夫展　３月21日～27日
横浜高島屋７回美術画廊

●古野恵美子展　５月10日～16日
京阪百貨店守口店６階京阪美術画廊

●楠森道剛　～想sou～　６月１日～30日
宝塚市・額縁の店NOGIWA

●福家省造展＜風景＆情景2012＞ 7月24日～29日
京都市・アートスペース東山

●第12回佐伯武彦個展（画集発刊記念）
８月１日～２日　豊岡市民会館３Ｆギャラリー

●三阪雅彦　水彩画展　７月26日～８月１日
京阪百貨店守口店６階京阪美術画廊

●軌跡と展開・日向啓江作品展
９月19日～10月１日
岡山市・アートガーデンプレゼンツ

●佐野儀雄展　11月13日～18日
大阪市・アートスペース　フジカワ

■2011年度のコンクール入賞・入選など

●第58回全関西美術展（大阪市立美術館・７月）
佐野儀雄（招待）山下潤志（招待）
福家省造

●第25回美浜美術展（11月）　奥村佳弘

■美術館企画展など

●第20回川西市展（２月）
川西市中央公民館・文化会館
審査員　水谷喜美子　奥村佳弘

●姫路城現代美術ビエンナーレ2012（７月）
水谷喜美子

●第27回日本の海洋画展
（全日本海員福祉センター主催）
（７月～）横浜市民ギャラリーほか　古曽成樹

●守口市展、赤穂市展（９月）
審査員　水谷喜美子

■支部会員・関西出品者の各種展覧会での作品発表
（企画展、グループ展など）

●アートフォーラム宇治美術作家展
３月８日～11日
宇治市文化センター　福家省造

●七人の猫展　７月19日～24日
京橋画廊　安孫子百合

●ガッテリーベレ絵画展（気ままな猫たちの作品展）
４月４日～10日　京都市・ぎゃらりい西利
安孫子百合　たつみゆうこ　巽富士子
西山眞理子　楠森道剛

●第27回ハクの会作家展　10月30日～11月４日
京都府立文化芸術会館
奥村佳弘　福家省造　古川晶弘

●The 9th Salon DO Painting exhibition
11月23日～28日　守口文化センター
安孫子百合　小林祐子　高孝壬津子　田渕幹夫
壇野計蔵　西山真理子　水谷喜美子　水谷浩三
森本正義　山岡正美

■2013年度　関西支部の主な予定

●第51回関西一陽展　３月13日～18日
大阪市立美術館

●2013一陽会関西作家展　７月３日～７日
兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー

●第59回一陽展＜大阪展＞　10月22日～10月27日
大阪市立美術館

●第52回関西一陽展　2014年３月
大阪市立美術館

●研修会
◦8月18日(日)　一陽展出品作品の下見会
13：00～　エル・おおさか

■退会　委員　島本芳伸　渡辺勝彦

■2013年度関西支部事務局

事　務　所　山下潤志
会　計　部　（支部会計）　藤本元美
（関西展会計）　水谷喜美子
（大阪展会計）　墨川廣徳
事　業　部　上田純子　大東明宏
川辺嘉章　福家省造
（会計監査…尾島　守　永田啓子）
（相談役…委員）

★「支部会員」とは関西支部に所属する委員、会員、会友をさします。

★ 2012年12月より、事務所が山下潤志方に移転
（福家省造・藤本元美　記）

福井一陽会
FUKUI

■活動報告

■福井一陽会新年会
１月８日　福井パレスホテル　３階

■福井一陽会役員会
４月８日　イタリア料理店　チャオ
12月16日　ビリケン本店　３階

■福井一陽会総会　４月22日　豆狸

■作品研究会Ⅰ　６月16日 福井県立美術館 研修棟

■作品研究会Ⅱ・合評会　６月21日　宝永小学校体育館

●個展等　森山秀樹展　11月１日～30日　ギャラリー桜（台湾）

■公募展

●鯖江市教育委員会　３月３日
まなべの館　鯖江市教育委員会　文化部門感謝状
宮川正市

●第４回鯖江市美展　３月３日～11日
響陽会館
運営委員・無鑑査出品　宮川正市
審査員・審査員出品　佐川文子
奨励賞　松原照代、山岸敏美

●第24回市美展ふくい　５月18日～27日
福井市美術館
絵画造形部門
審査員・審査員出品　佐川文子・清水正男
無鑑査出品　内藤汎、畑透仁
福井市議会長賞　西藤節子
福井新聞社賞　白崎榮子
奨励賞　郡谷美穂子、坂井和子、坪田美代子、武鎧恭子、孫崎公子、松井優子

一般入選　石田孝子、茨山芙美子、阪口美幸、櫻川幸代、竹内光一、松原照代、村上禮子、渡辺妙子

●第29回福井サムホール展　７月19日～29日
福井放送会館カルチャーセンター
絵画造形部門　井ザワ賞　武鎧恭子
入選　郡谷美穂子

●第11回北国街道アート展　11月13日～11月23日
鯖江商店街　作品出品　宮川正市

●福井市民文化祭　出品（11月２日～４日　フェニックスプラザ）清水正男

●第32回福井県市町村文協選抜美術展
10月13日～15日
南条文化会館　作品出品　宮川正市

●第53回鯖江市文協展　11月９日～11日
響陽会館　宮川正市

●第63回福井県総合美術展　11月９日～18日
福井県立美術館
絵画造形部門
審査員・審査員出品　岩永勝彦、佐川文子
第63回展賞　村田宏人
審査員特別賞　清水正男、内藤汎
福井テレビ賞　谷口恵子
福井エフエム放送賞　宮川正市
一般入選　石田孝子、茨山芙美子、大森英節、郡谷美穂子、児玉常聖、坂井和子、阪口美幸、櫻川幸代、島田くみ子、白崎榮子、竹内光一、坪田美代子、中西美恵子、西藤節子、武鎧恭子、牧田聖代、増澤恵美子、松原照代、松井優子、村上禮子、山岸敏美、森山秀樹、横田純子、渡辺妙子

●第37回鯖江市美術協会展　11月30日～12月２日
響陽会館　作品出品　宮川正市

●第62回福井県勤労者美術展
12月６日～12月９日
福井県立美術館
絵画造形部門　日本労働組合総連合会福井県連合会会長賞　孫崎公子
福井県労働福祉会館理事長賞　松井優子
奨励賞　坪田美代子、松原照代
入選　白崎榮子、村上禮子、渡辺妙子

■グループ展他

●10人展　１月１日～３月31日
台湾（台中）桜ギャラリー
北嶋三智子、児玉常聖、増澤恵美子、森山秀樹

●第10回グループ彩展（水彩画）　４月５日～８日
福井県立美術館　佐川文子、松井優子

●第30回究展　４月11日～15日
福井県立美術館　佐川文子

●第20回グループS展　４月11日～15日
福井県立美術館
佐川文子、阪口美幸、白崎榮子、竹内光一、内藤汎、中西美恵子、孫崎公子、松井優子、松原照代、村上禮子、渡辺妙子

●快雅な絵画展　５月１日～30日
ベルベール　斉藤嘉隆

●第７回笑夢の会展　５月17日～５月20日
福井県立美術館
児玉常聖、増澤恵美子、大森英節、島田くみ子

●第52回記念べんべん会展　７月11日～15日
鯖江市　まなべの館
佐川文子、石田孝子、横山純子

●おとなの美術部展　７月20日～27日
福井駅前空間　斉藤嘉隆

●水彩画展　８月17日～９月17日　北陸銀行
北嶋三智子、児玉常聖、増澤恵美子、大森英節、島田くみ子

●アートプロムナード展　10月31日～４日
福井県立美術館
佐川文子、石田孝子、茨山芙美子、郡谷美穂子、坂井和子、阪口美幸、櫻川幸代、白崎榮子、谷口恵子、坪田美代子、中西美恵子、西藤節子、武鎧恭子、牧田聖代、孫崎公子、松井優子、村上禮子、横山純子、渡辺妙子

●第４回吉川絵画クラブ展　11月14日～18日
まなべの館　宮川正市

●震災福島県いわき市の仮設住宅の住民へ干支絵・書（寿）作品の200枚寄贈　12月18日～12月25日
いわき市　北嶋三智子、児玉常聖
（畑　透仁　記）

石川支部
ISHIKAWA

■活動報告

●総会　４月８日　ガーデンホテル金沢

●一陽会石川支部展　６月28日～７月１日
石川県立美術館　本部より森秀雄代表、濵田運営委員を招聘し、作品講評会・懇親会を開催。

●作品研究会　３月４日　市民工芸うるわし

●作品研究会　5月27日　インプレス
●作品研究会　8月26日　インプレス
●一陽展反省会　11月18日　金沢都ホテル
●一陽会石川支部2013新春展　1月22日～27日
金沢21世紀美術館

■個展
●竹中外喜博油彩画展　6月2日～30日
かほく市まちかど交流館
●飯田恭彦　洋画展　8月28日～9月14日
北陸銀行津幡支店ロビー
●飯田恭彦　洋画展　9月25日～30日
津幡町文化会館シグナス
●山田裕一　水彩画展　10月1日～31日
北陸銀行津幡支店ロビー

■公募展
●第68回現代美術展　3月31日～4月17日
金沢21世紀美術館
理事出品　大場吉美
評議員出品　野中未知子、安田淳
会員・審査員出品　中本邦夫
会員出品　浮田正樹、柴山桂子、白井正浩
竹田明男、西山恭申
次　賞　益田恭行、城戸清子
北國賞　飯田恭彦、阿部正子、金田千佳
佳作賞　中野久賀子
入　選　和泉洸、大鍬英治、岡田博、小島信子、
芝西広美、山崎綾乃、尾山隆夫、田方勇、
竹中外喜博、中谷美和子、西村茂美、
平林辰洋、松井三枝子、南ヒサコ、
山田裕一
●第16回日仏現代国際美術展　4月1日～6日
東京都美術館　委員出品　安田淳
●ゆーりんピック2012　5月18日～20日
石川県庁19階ホール　金賞　松井三枝子
●第1回野々市市美術展　7月9日～16日
野々市市情報交流館カメリア
会員・審査員出品　竹田明男、西山恭申
会員出品　尾山隆夫
●日仏現代国際美術選抜展　9月25日～30日
大森ベルポート　委員出品　安田淳
●第8回神通峡美術展　10月6日～19日
入選　柴山桂子
●ねんりんピック宮城・仙台2012美術展
10月13日～15日　メッセみやぎ
入選　松井三枝子

●七尾市美術展覧会　11月1日～4日
石川県立七尾美術館
審査員出品　野中未知子
佳作　中谷美和子
●石川県勤労者美術展　11月28日～12月2日
金沢21世紀美術館　招待出品　岡田　博
●日本芸術センター第6回絵画公募展
石川県立美術館
金沢美術工芸大学学長賞　竹中外喜博

■グループ展
●2012石川の作家が描く白山展　3月9日～18日
画廊プラザ樹　大場吉美、浮田正樹
安田　淳、竹田明男、西山恭申
●野々市市椿まつり　3月17日～18日
野々市市文化会館フォルテ
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫
●第32回根上書道・絵画合同展　5月19日～27日
根上学習センター　和泉洸、阿部正子、山崎綾乃
●ふたりの造形・齋藤久子×大場吉美展
6月13日～24日　金沢21世紀美術館　大場吉美
●能美市絵画会協会展　6月15日～24日
根上学習センター
和泉洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇
●N展　6月17日～30日　辰口町博物館
和泉洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇
●かほく市絵画愛好会展　6月24日～7月8日
うみっこらんど七塚
高田　勇、竹中外喜博、山田裕一
●第8回白山会南加賀造形美術展
6月28日～7月2日　加賀市美術展
和泉洸、安田淳、芝西広美、益田恭行、山崎綾乃
●第35回有名作家チャリティー作品展
7月4日～9日　金沢市めいてつエムザ
浮田正樹、竹田明男
●第8回能美市作家協会展　7月14日～22日
根上学習センター
和泉洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇
●第17回七尾美術作家協会展　7月14日～16日
石川県七尾美術館　浮田正樹、野中未知子
●第22回津幡美術友会展　7月24日～29日
津幡町文化会館シグナス
浮田正樹、飯田恭彦、岡田　博、川村甚子
竹中外喜博、平林辰洋、山田裕一
●第52回小松美術展　7月28日～8月26日
小松市立宮本三郎美術館　安田　淳、益田恭行

●こまつの美町屋ギャラリー展
7月28日～8月26日
長保屋ギャラリー、松雲堂ギャラリー、ギャラリー
カフェキャトルセゾン　安田　淳
●里山里海絵画展　8月4日～26日
輪島市門前　浮田正樹
●根上絵画クラブ作品展　8月30日～9月4日
ギャラリーいずみ　阿部正子、山崎綾乃
●苺の会絵手紙展　9月3日～15日
喫茶トロイカ　山崎綾乃
●小松高校同窓会記念特別展
9月8日～11月3日　小松高校記念会館
和泉　洸
●第1回野々市市美術文化協会展
10月21日～28日　野々市市情報交流館カメリア
竹田明男、西山恭申、尾山隆夫
●地区文化祭展　10月20日～21日
井上コミュニティプラザ　川村甚子
●第55回津幡町文化展覧会　11月1日～3日
津幡町文化会館シグナス
飯田恭彦、岡田博、川村甚子、平林辰洋
●文化祭　11月1日～3日　此花町公民館
小島信子
●能美市文化祭　11月2日～4日
能美市寺井地区公民館
和泉洸、阿部正子、田方勇
●かほく市文化祭　11月3日～4日
かほく市体育館　高田　勇、竹中外喜博
●2012CAFネビュラ展　11月7日～18日
埼玉県立近代美術館
安田　淳
●インスタレーション4人展　11月14日～25日
石川国際交流サロン　大場吉美
●第8回津幡美術作家協会展（小品展併設）
11月14日～18日　津幡町文化会館シグナス
浮田正樹、飯田恭彦、岡田博、川村甚子
竹中外喜博、平林辰洋、山田裕一
●第49回歳末美術展　11月16日～19日
小松芸術劇劇場うらら　安田　淳
●N展　11月24日～12月3日
能美市学習センター
和泉　洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇
●第52回歳末美術展　11月28日～12月3日
香林坊大和
大場吉美、浮田正樹、飯田恭彦、柴山桂子
白井正浩、竹田明男、中野久賀子、西山恭申
野中未知子、安田　淳、阿部正子、城戸清子
●秋の大作展　11月28日～12月3日
ギャラリー新神田　柴山桂子
●第18回七尾美術作家協会歳末チャリティー展
12月2日～4日　フォーラム七尾
浮田正樹、野中未知子
●能美市歳末助け合い入札展　12月7日～9日
寺井福祉会館　阿部正子
●第7回私の作品展　1月15日～2月6日
うみっこらんど七塚
浮田正樹、飯田恭彦、岡田　博、川村甚子
竹中外喜博、平林辰洋
●第4回はてなし会展　2月12日～17日
京都府立文化芸術会館　中谷美和子
●かほく市絵画愛好会展　2月10日～3月3日
うみっこらんど七塚　高田　勇、竹中外喜博
●根上絵画クラブ新春展　2月
アートギャラリータント
和泉洸、阿部正子、山崎綾乃、田方　勇
（白井正浩　記）

富山一陽会
TOYAMA

■活動報告
■2012年1月
●富山市美術作家連合展　富山市民プラザ
萩中幸雄・桝田律子・古田恵子・荒井哲夫
■2月
●となみ野美術展大賞展　砺波市美術館　山本文郎
●7個展（七人の作家）　富山県民会館　笹山満義
●ARTBOX152桝田律子展　西田美術館
桝田律子
■3月
●東日本大震災チャリティー展　古田恵子
●砺波市美術展　砺波市美術館　山本文郎
■4月
●洋画2012年in庄川展　庄川美術館
（招待）萩中幸雄、山本文郎
●なないろ流星展　富山県民会館　桝田律子
●富山県洋画連盟展　富山県民会館
萩中幸雄・山本文郎・笹山満義・丸山敦子
桝田律子・永澤一美・古田恵子
●第57回一陽展巡回富山展　富山県民会館
基本作品　51点、富山作品　20点　計　71点

■5月
●滑川市美術連合展　滑川市立博物館　笹山満義
●東秩父版画フォーラム　東秩父村和紙の里
永澤一美

■6月
●第67回富山県美術展　（実行委員長）萩中幸雄
富山県近代美術館（会員出品）
（佳作）　伏黒由利子
（入選）　桝田律子・古田恵子・永澤一美
荒井哲夫・橋本武嗣・武田清子
姫路広司・菊　昌隆・池田国男
藤木良一・梶原信男・高橋久仁子
●となみ野美術展2012　砺波市美術館　山本文郎

■7月
●富山県洋画連盟新川地区会員展　新川文化ホール
笹山満義
●滑川洋画連盟展　滑川市立博物館　笹山満義
●古田恵子展　アートギャラリー栄　古田恵子
●七夕会作品展　アートギャラリー栄　菊　昌隆
●小杉采芳会美術展　アイザック小杉文化ホール
竹内隆男

■8月
●富山市洋画作家連盟展小品展
富山県民会館ギャラリー
萩中幸雄・古田恵子・桝田律子
●第58回展出品事前研修会　サンフォルテ
講師　細川　尚委員
●上市町美術展　北アルプス文化センター
池田国男

■9月
●氷見市美術展　氷見市民会館
（招待）狭間潤子、永澤一美
●射水市美術協会展　高周波文化ホール　竹内隆男
●四志の会　星の街ギャラリー　橋本武嗣

■10月
●第58回一陽展　国立新美術館
萩中幸雄（委員）・山本文郎（会員）・桝田律子（会友）・狭間潤子（会友）・丸山敦子（会友）・永澤一美（会友）・古田恵子（会友）・伏黒由利子（会友）・藤木良一・菊昌隆・姫路広司・高橋久仁子・橋本武嗣・根建カズヨ・富岡博子・池田国男・竹内隆男・山本正臣・梶原信男
（会員推挙）　笹山満義
（会友推挙）　荒井哲夫
（奨励賞）　武田清子

●富山市美術展
富山市民プラザ・アートギャラリー
（招待出品）　萩中幸雄・桝田律子・古田恵子
（入選）　根建カズヨ・菊　昌隆・姫路広司
橋本武嗣
●砺波市展　砺波市美術館　山本文郎
●小矢部市善意作品頒布会
小矢部市総合福祉センター　山本文郎
●富山県洋画連盟チャリティ小品展　富山県民会館
萩中幸雄・桝田律子
●神通峡美術展　大沢野生涯学習センター
富岡博子
●富山ねんりん展　富山県民会館美術館　菊　昌隆
●昌隆　作品展　北陸銀行呉羽支店　菊　昌隆

■11月
●富山県美術連合展　富山県民会館
萩中幸雄・山本文郎・笹山満義・丸山敦子
桝田律子・永澤一美
●越中アートフェスタ　富山県民会館
（佳作）　古田恵子
荒井哲夫・永澤一美・池田国男・竹内隆男
藤木良一・姫路広司・梶原信男
●とやま国際アートキャンプ　ふれあいの里
萩中幸雄
●砺波善意色紙頒布会　チューリップ色彩館
山本文郎
●富山県生活文化展　富山県民会館
萩中幸雄
●アミカル展　アートサロン　コスモ
萩中幸雄
●富山市民大学文化祭　富山市民プラザ
（招待出品）　萩中幸雄
菊昌隆・根建カズヨ・藤木良一
●版画2012年in庄川展　庄川美術館
狭間潤子・永澤一美
●日本版画会館　東京都立美術館
永澤一美
●氷見版画会展　小さな美術館　永澤一美

■12月
●古田恵子展　田屋ギャラリー　古田恵子
●富山駅北地下道市民ギャラリー展
富山駅北地下道市民ギャラリー　橋本武嗣
●野萩の会展　富山県民会館
萩中幸雄・橋本武嗣・菊昌隆・姫路広司
藤木良一・根建カズヨ

●富山市民大学文化祭　富山市民プラザ
根建カズヨ

■13年2月
●富山市美術作家連合展　富山市民プラザ
萩中幸雄・桝田律子・古田恵子・荒井哲夫
（笹山満義　記）

長　野　支　部
NAGANO

■支部活動
●総会　3月17日
ホテル　ニュースステーション（松本市）
●第45回　一陽会長野展　8月1日～8月5日
◦松本市美術館（松本市）招待作家2名　2点
◦絵画36名　36点　彫刻3名　3点
※作品研究会、7月31日　細川尚委員、濵田清委員を講師に実施
●第58回一陽展受賞者・初入選者等
奨励賞　渡辺顕久
会員推挙　北島英巳
会友推挙　中山直子・丸山うた子・吉池仁美
初入選者　小林明子・横山優子

■個人・グループ活動他
●垣内カツアキ　海と山展　3月20日～7月8日
●垣内カツアキ　近代展　5月1日～5月31日
●第8回　垣内カツアキ　水彩スケッチデッサン展
7月10日～8月7日
●第3回　垣内カツアキ　富士の四季展
9月10日～11月30日
以上　箕輪町　伊那アルプス美術館
●第7回　アート・エム絵画展
3月26日～3月31日　長野アートギャラリー82
代表　松川勝男（友）他15名
●第5回　記念AKU展―2012
5月8日～5月13日　松本市美術館
やまぐちかずお
●第5回　信州伊那高遠の四季展
7月28日～9月2日　信州高遠美術館
やまぐちかずお
●飯山市美術館企画展　9月8日～11月4日
北信濃逍遥の画家たち　館山市美術館　田中渉
●小島金三洋画展　11月2日～11月13日
画廊カンヴァス城山（長野）
●松川勝男展　11月10日～11月25日
長野市　アート・エム

●春原功彫刻作品集出版　12月
（田中渉　記）

中　部　支　部
CHUBU

2012年2月～2013年1月
■支部活動
●中部展打合わせ会　3月10日
名古屋市芸術創造センター
●第49回中部一陽展　5月2日～5月6日
愛知県美術館ギャラリー8F
（彫刻3点・絵画64点）
受賞者（絵画）　（彫刻は該当者なし）
中部一陽賞　加藤孝仁
中日賞　岡本勇夫
東海TV放送賞　山田晃平
奨励賞　服部秀勝、大橋壯久、鈴木啓子
新人賞　竹原朋子
●夏期総会　7月28日　名古屋市芸術創造センター
●岐阜一陽会（第39回）7月24日～29日
岐阜県美術館
彫刻　今井田一巳、森島昭道
絵画　今井田高江、大橋壯久、小畑恭子
加藤孝仁、河井一郎、木村満幸
後藤泰洋、久保田正剛、志知佳子
高森和子、常川雅子、西脇義照
野田美子、堀洋司、山田晃平、高橋航也
●第13回陽友会展　10月23日～28日
名古屋市民ギャラリー8F
伊藤知佐子、今井嘉子、大橋壯久、岡本勇夫
片野泰人、加藤孝仁、木村満幸、五木田あさ子
板倉圭介、志知佳子、杉井基浩、鈴木啓子
高橋昭子、高森和子、竹原朋子、常川雅子
野田美子、服部秀勝、山田晃平
●新年総会　2013年1月26日　囲み屋（名古屋）

■個人活動
◇2012年1月
●グループYOU友　ギャラリーるぽ（一宮）
野田美子、高森和子、木村満幸
◇2月
●第8回志摩観光協会・絵画展
大王大賞展
秀作　岡本勇夫、片野泰人
入選　高橋昭子
◇3月

●高森敏夫・和子ふたり展　ギャラリー葵（一宮）
◇4月
●ギャラリー葵5周年記念展　高森和子（依）
●山田晃平油彩展　ジャック＆ベティ（岐阜）
●第65回春艸会展　愛知県美術館ギャラリー
中嶋美瑳子
●小田勝　古稀記念絵画展
蒲郡市博物館ギャラリー
●第30回さつき会展　ギャラリーるぽ（一宮）
野田美子
◇5月
●尾張旭市芸術展　尾張旭市文化会館
絵画部門　加藤美千代、岩田悠子
●大垣美術家協会展　大垣市文化会館
久保田正剛、西脇義照
◇6月
●一宮総合美術展　一宮文化センター
高森和子、木村満幸
◇7月
●養老町美術協会展　養老町民ギャラリー
久保田正剛
◇9月
●愛知県文化協会連合展　愛知県美術館
片野泰人、岡本勇夫
●一宮美術作家協会展　一宮市博物館
高森和子、木村満幸
●2012西濃美術展　大垣市文化会館
久保田正剛、西脇義照
●大垣市アートフルタウンフェア参加
大垣市商工会　久保田正剛
◇10月
●大垣市展　大垣市文化会館
久保田正剛
●養老町美術展　養老町民会館
久保田正剛、西脇義照
●春艸会秋季展　セントラル・アートギャラリー
中嶋美瑳子
●河井一郎展　ジャック＆ベティ（岐阜）
●源流展　岐阜県美術館　小畑恭子
◇11月
●中嶋美瑳子展（画集出版記念）
ギャラリー彩（名古屋）
●第70回一宮市美術展　一宮文化センター
高森和子（依）
◇12月
●第70回現代作家美術展　一宮博物館　高森和子
●神崎元志作品展＝創作と模作＝　クエート浜松
●チャリティ
◦岐阜新聞　岐阜マーサ21　久保田正剛
◦岐阜新聞西濃　イオン大垣　久保田正剛
◦養老チャリティ　トミダヤ　久保田正剛
◦朝日新聞　丸栄デパート　中嶋美瑳子
◦ギャラリー聚（0号）ギャラリー聚
中嶋美瑳子
◇2013年1月
●第6回8人の女流展
ノリタケの森ギャラリー（名古屋）　加藤美千代
●第67回水彩協会展　愛知県美術館ギャラリー
宿沢浩（審）、加藤孝仁
●第58回一陽展
受賞者　奨励賞　片野泰人、大橋壯久
（久保田正剛、中嶋美瑳子　記）

神奈川支部
KANAGAWA

2012年4月～2013年3月
●訃報　一陽会代表、神奈川支部　森秀雄先生が2012年9月20日にご逝去されました。誠に残念です。ご冥福をお祈り申し上げます。葬儀に際しましては、一陽会各支部及び一陽会関係者他多数の方々のご弔問を頂き、また多くの方にお手伝いいただき、ご遺族ともども神奈川支部としましても、御礼申し上げます。
■支部活動
●第17回神奈川一陽展
2012年6月10日～6月15日
横浜市民ギャラリー　出品者　35名
出品点数　39点
●第17回神奈川一陽展オープニング懇親会
6月10日
●研修会　7月8日　かながわ市民センター
一陽展に向けての作品講評会（出席者19名）
一般応募者、会友の作品の下見、講評を行った。
●第58回一陽展受賞者、初入選者等
奨励賞　青山孟夫　緒方かおる
損保ジャパン美術財団賞　茶畑顕子
会友推挙 小松啓子　菅原礼子　小林英明（版画）
初入選者　内田綾子
●神奈川支部年末懇親会　12月6日
広東飯店（横浜中華街）

■個人、グループ活動他
●詩画展　4月30日～5月6日　画廊　楽
村杉哲子
●やまんばアートビエンナーレ―かたルー
5月21日～30日
神楽坂セッションハウス　衛守和佳子
●ハマ展あざみ野会員会友展　6月4日～10日
横浜市民ギャラリーあざみ野　杉村哲子
●茅ヶ崎美術家協会展　6月19日～7月14日
茅ヶ崎美術館　横須賀康子　内山靖子　磯部順子
●第66回女流画家協会展　6月29日～7月6日
東京都美術館　塩川慧子
●神部修成　油彩小品展　6月
新横浜プリンセスホテルアートギャラリー
神部修成
●女流画家協会関西展　7月17日～22日
兵庫　原田の森ギャラリー　塩川慧子
●第2回女流吉象展　7月30日～8月5日
銀座ギャラリームサシ　塩川慧子
●第11回日韓美術交流展（川崎―富川友好都市）
9月5日～9日
アートガーデン川崎　横須賀康子
●コスモ夢舞台第9回里山アート展
10月13日～11月3日
新潟県阿賀町豊美　衛守和佳子
●「絵画をめぐる7つの迷宮」展
11月17日～12日24日
損保ジャパン東郷青児美術館　故　森秀雄
●さかえアートdeつながるショップ、ショップ、ショップ2012　11月18日～24日　横浜市栄区
（栄区長賞受賞）　衛守和佳子
●第68回ハマ展　11月20日～12月2日
横浜市民　ギャラリイ　杉村哲子
●「絵画の結晶体の結晶」展（企画　林紀一郎）
11月26日～12月1日　銀座　ギャラリー暁
塩川慧子
●「the　mono　show」12月21日～23日
上海―莫干山路五十号
CREATIVE SPACE&BUND 1919　衛守和佳子
●新春富岳展　1月9日～2月4日
小田原東美企画　神部修成
●新春絵画展　1月14日～20日　画廊　楽
杉村哲子
●西相美術協会新春展　1月17日～21日
小田原　アオキ画廊　神部修成
●サントリーニ　ビエンナーレ　オブ　アート2013（主催　ギリシャ共和国）入選者展
2013年1月10日より　ギリシャ　サントリーニ島
2013年3月10日より　世界25都市巡回展
横須賀康子
●DU NORD展　3月25日～30日
銀座　井上画廊　井上秀子　他
（千坂健　記）

千葉支部
CHIBA

■支部活動
●幹事会・総会・新年会　1月29日
ホテルポートプラザ千葉
●千葉一陽会同人・準同人展　3月8日
同人（15名）、準同人（4名）
画廊ジュライ
●準備会（第35回千葉一陽展について）3月11日
勤労市民プラザ
●葉展　3月12日　委員・会員（26名）
日本橋小津ギャラリー
●第35回千葉一陽展　6月19日
千葉県立美術館
●第35回千葉一陽展　研修会　6月23日
千葉県立美術館
●第35回千葉一陽展　授賞式・懇親会　6月23日
ホテルポートプラザ千葉
●第35会千葉一陽展　ギャラリートーク
6月24日　千葉県立美術館
●コクリコ会ガラス絵DVD映写会　10月4日
東武ホテル（銀座）　石川三知代会員主宰
●幹事会　11月16日　千葉市美術館9F講座室
■個展
●小嶋英子展　3月20日　ギャラリー金巴里
●大久保綾子展　4月17日　ギャラリー金巴里
●濵田　清展　7月13日　富里中央公民館
●平賀正勝遺作展　8月2日　画廊ジュライ
●山田久子展　10月1日　井上画廊
●佐々木英子展　11月6日　ギャラリー金巴里
■グループ展
●第21回彩の會展　2月8日
イオン木更津店グリーンホール
細川　尚委員主宰
●田中修さんをしのぶ会　3月19日
地球堂ギャラリー　鹿又保子会員

●25年記念ガラス絵コクリコ会展　4月10日
千葉県立美術館　石川三知代会員主宰
●公募団体ベストセレクション2012　5月4日
東京都美術館　細川　尚委員
●千葉市美術協会特別展秀作2012　6月19日
千葉市美術館　田沼和夫会員、山口陽子会員
●ante展　7月9日　Salon de G
大北節子会員、大久保綾子会員
●日本ガラス絵協会展　7月10日
ギャラリー一枚の繪
石川三知代会員、古賀敦子会員
加納勝子会友、川口文子会友
●セレクトナイン展　10月1日　画廊るたん
古賀敦子会員
●第21回究美会展　11月6日
千葉市美術館市民ギャラリー　細川　尚委員主宰
●錦秋展　11月8日　ギャラリーK　鹿又保子会員
●November展　11月17日　ギャラリー曉
大北節子会員
●野田美術会展　11月28日
さわやかちば県民プラザ　鹿又保子会員
●スペース45°展　11月29日　画廊ジュライ
福田利明会員

■コンクールその他
●千葉市展　3月3日
委嘱優秀賞　山口陽子会員
美術館長賞　若月　弘会友
奨励賞　伊藤はる子会友
●上野の森美術館大賞展　4月28日
入選　山田久子会員
●伊那高遠の四季展　7月28日
奨励賞　山口陽子会員
●千葉県展　10月18日
県文化振興財団理事長賞　佐々木英子会友
木更津市長賞　河野緋紗子会員
会員推挙　宇梶陽子会友、里地芳美会友
岩田明美同人
●丹波美術大賞展　12月9日
入選　田沼和夫会員
●第35回千葉一陽展受賞者
千葉一陽賞　里地芳美
千葉県立美術館長賞　岩田明美
千葉会友賞　加納勝子、宮坂和子
同人賞　原　弘
同人努力賞　櫻田セツ、早瀬淳男
同人奨励賞　佐々木英子、細野美佳、前田博子
吉田静江、若月　弘
準同人秀作賞　石川充男
準同人褒賞　武岡政代
新人賞　小澤賢侑、平下真弓
奨励賞　佐野功治、高梨千恵子、立石真悠
葉萌賞　石井麻子、石津る美、板垣秀子
酒井文子、清宮みさ子
同人推挙　佐々木英子、吉田静江、若月　弘
●第58回一陽展受賞者・初入選者
会員賞　田沼和夫
会友賞　井上峰子、宮坂和子
青麦賞　岩田明美
奨励賞　原　弘
委員推挙　福田利明
会員推挙　山本映子
会友推挙　佐々木英子、里地芳美、若月　弘
渡辺とし子
初入選　小澤賢侑、佐野功治、立石真悠
千葉支部からの入選者　15名
千葉支部員の異動
新委員　福田利明
新会員　山本映子
新会友　佐々木英子、里地芳美、若月　弘
渡辺とし子
新同人　小澤賢侑、佐野功治、立石真悠、平下真弓
（棚倉英雄　記）

茨城一陽会
IBARAGI

■支部活動
●第30回　上野の森美術館大賞展
2012年4月28日～5月10日
上野の森美術館　雨谷達夫
●海老根美奈子彫刻展―40年の歩み　そしてこれから―
2012年4月29日～5月5日
東海ステーションギャラリーB（東海村）
海老根美奈子
●第41回　茨城文化団体　連合美術展
2012年6月17日～24日
県民文化センター（水戸市）
小宅淑子、雨谷達夫、磯山芳男、飯田政子
宇留野信章、海老根美奈子、北沢努、酒井恒太
篠原洋、舘野弘、中村義孝、馬場絢女
樋口美千代、深谷直之、六﨑敏光、森山元國
●MITO彫刻展　40周年記念展
2012年6月29日～7月4日
タキタ画廊（水戸市）
小宅淑子、篠原洋、六﨑敏光、森山元國
●北沢努展　森に棲む2012
2012年7月7日～15日
Nobu's Gallery&Cafe（ひたちなか市）　北沢努
●MOKSHA2010▶2012解放―心の自由
2012年8月7日～13日
ギャラリーザザ（ひたちなか市）　北沢　努
●中村義孝展―進化するかたち―
2012年8月26日～9月8日
東海ステーションギャラリーA（東海村）
中村義孝
●茨城一陽会絵画部展―5 Pieces―
2012年9月24日～29日　井上画廊（銀座）
雨谷達夫、宇留野信章、小川京子
舘野弘、山口功
●第2回銅陵国際銅彫刻展
2012年10月30日～11月5日（中国　銅陵市）
中村義孝
●第41回グループ展《サボ》
2012年11月2日～7日
アートセンターギャラリー（水戸市）
海老根美奈子
●深谷直之石彫展―大地の循環―
2012年11月14日～20日
日本橋三越本店（日本橋）　深谷直之
●Art+Craft展
2012年11月21日～12月20日
ギャラリーしのざき（水戸市）　北沢　努
●YEAR-END EXHIBITION
2012年12月5日～22日
ギャラリーせいほう（銀座）
中村義孝、深谷直之
●第22回ちょっと小さな展覧会
2012年12月18日～30日
ギャラリーザザ（ひたちなか市）
樋口美千代、北沢努、六﨑敏光
●六﨑敏光彫刻展―心のフィルムが描いた軌跡―
2013年1月26日～3月24日　下館美術館（筑西市）
●第20回土なかま彫塑展
2013年2月24日～3月2日
東海ステーションギャラリーA（東海村）
北沢努、鈴木しのぶ、村山悦子、谷津喜美代
●土なかま彫塑展20周年記念企画―北沢努展―
2013年2月24日～3月2日
東海ステーションギャラリーB
（深谷直之　記）

新潟一陽会
NIIGATA

■活動状況
●新潟の画家たち
2011年12月23日～2012年2月19日
新潟県立万代島美術館　鈴木　力
●新潟の抽象作家の眼展part4
1月2日～8日　新潟美術学園ギャラリー
市橋哲夫
●高橋洋子日本画小作品展　やまぼうし
●光の展覧会・仙台展　4月10日～16日
宮城県美術館　木村保夫
●ART×TOYAMA　4月20日～22日
富山県民会館　市橋哲夫
●公募団体ベストセレクション2012
5月4日～28日　東京都美術館
鈴木　力
●グループWAVE　part2　5月14日～19日
画廊るたん（銀座）　市橋哲夫・高橋洋子
●県展（洋画部）　駒村励吾
●水原郷を描く　6月　駒村励吾
●日本美術家連盟信越地区会員展
7月10日～16日　新潟県民会館
市橋哲夫、山本安雄、桑原　收、木村保夫
長谷川清晴、北村五十一
●戦争・平和展　8月9日～16日
長岡市美術センター　木村保夫
●南魚沼美術展　9月6日～9日
南魚沼市デスポート　山本安雄、桑原　收
●銅版画展（県民会館）　高橋洋子
●青土会展　10月2日～7日
長岡市　ギャラリィ創　山本安雄
●桑原　收展　10月6日～12月8日
十日町市（まちなかギャラリー）
●南魚美術協会々員展　10月13日～15日
南魚沼市B.G体育館　山本安雄、桑原　收
●イタリアの詩　鈴木　力展
2012年10月11日～2013年1月8日
池田20世紀美術館　鈴木　力

●第10回釜山国際環境芸術祭BIEAE2012
10月29日～11月３日
韓国釜山市乙淑島文化会館　市橋哲夫
●銅版画個展　10月
ギャラリー万代島　高橋洋子
●第20回白美会展　10月
新発田市　駒村励吾
●新潟県「芸展」　11月３日～９日
新潟県民会館
木村保夫、山本安雄、桑原　收
駒村励吾、高橋洋子
●銅版画蔵書票展（県民会館）　高橋洋子
●'GUN「新潟に前衛があった頃」
11月３日－2013年１月14日
新潟県立近代美術館　市橋哲夫
●市橋哲夫展　2013年１月31日～２月12日
ギャラリーあらき　市橋哲夫
●５周年記念'08－'12展示作家による小品展　第２回
１月16日～26日　長谷川清晴
●第44回　新潟市美術協会展　高山久子（版画）
（鈴木　力　記）

高知一陽会
KOUCHI

2012年４月～2013年３月
■活動の経過
●勉強会　７月17日(火)
●一陽会高知'12展　７月18日(水)～22日(日)
高知市文化プラザ市民ギャラリー
■活動の総括
●グループ展（一陽会高知'12展）
24回目のグループ展。高知一陽会メンバー５名が、秋の本店出品予定作品も含め各２点あるいは３点を持ち寄り、陳列展示した。
●勉強会
上記グループ展陳列終了後、展覧会場において委員、会員を中止に運営された。十分な時間の中で各出品作品について率直な指摘と意見の交換を行った。
■個人的活動
●第10回"グループ彩"作品展　４月17日～22日
高知市文化プラザ市民ギャラリー
大黒郁代
●寺尾孝志の世界　６月２日～７月26日
香美市立美術館
大黒郁代
●Art Skaall2012　６月19日～24日
高知市文化プラザ市民ギャラリー
平田慎一
●「具象と抽象、感じる絵画」展
８月３日～10月28日　中土佐町立美術館
安藤義孝、平田慎一
●第41回オールドパワー文化展
９月13日～18日　高知県立美術館
審査員・大黒郁代
●第66回高知県展　10月５日～22日
高知県立美術館
安藤義孝（入選）、大黒郁代（無鑑査）
末田光一（無鑑査）、平田慎一（褒状）
●安藤義孝展　12月１日～７日
アトリエ倫加（香美市）
●第33回高知県女流展　３月16日～24日
高知県立美術館
審査員・大黒郁代
◎消息
高知一陽会創立メンバーであった竹村晴夫元会員が2011年８月20日に逝去されました。
（末田光一　記）

青森一陽会
AOMORI

■青森一陽会打ち合わせ（青森市）５月
主な案件は、青森市の五拾壱番館が閉廊したことによる今年の小品展について
●クロッキーの会研究会　６月
青森市西部公民館
●第64回女流画家協会展　６月
対馬玲子
●第34回青森一陽展　7月
青森市民美術展示館
60号以上お作品20点展示
●第60回記念青森美術会平和展　８月
青森市民美術展示館
笹森眞紀子、対馬玲子、対馬久世喜
●現代美術の展望東北展　８月
県立美術館
対馬玲子、対馬久世喜
●第50回青森県展　９月
県立美術館
招待出品　対馬久世喜
●青森美術会フォルム研究会　10月
青森市中央市民センター
●第47回色紙展　10月　社会福祉協議会
●第24回青森一陽会小品展　10月
弘前市ギャラリークレアシオン
小品30点展示
●クロッキーの会研究会　11月　青森市西部公民館
●第42回教美展　11月　青森市民美術展示館
中嶋　強、逢坂清悦、新戸部一弘
対馬久世喜、土岐千佳子、笹森眞紀子
（対馬久世喜　記）

秋田一陽会
AKITA

■支部活動
●第５回セリオンカルチャー展
４月27日～５月16日
ポートタワーセリオン・ギャラリー３Ｆ
石川恭子
●第12回港洋画人展　５月10日～25日
秋田市北部サービスセンター展示ホール
石川恭子
●秋田の女流画家展　５月23日～６月１日
秋田市中通アートボックス　榎　江里子
●石川恭子教室・第29回グループ耀展
６月７日～10日　秋田市アトリオン　石川恭子
●第58回一陽展（本展）　10月３日～15日
国立新美術館　高橋章子（会友賞）
●第56回秋田美術作家協会展　11月８日～13日
秋田県立美術館
榎　江里子、小玉律子、菅野　操
高橋章子、渡辺喜久蔵
（渡辺喜久蔵　記）

福岡グループ
FUKUOKA

●17th 日本の美術全国選抜作家展
２月23日～26日　上野の森美術館
前田　睦
●第６回美の継承展　８月９日～12日
鎌倉芸術館　前田　睦
●第58回一陽展　10月３日～15日
国立新美術館
奨励賞　生嶋香津子、則松順子
入　選　山崎千代香
●第31回文化祭　絵画クラブ作品展
11月３日～４日
朽網市民センター　前田　睦、生嶋香津子
則松順子、山崎千代香
●第５回碧(みどり)の風絵画作品展　11月６日～25日
ギャラリーみどりの館　前田　睦
（前田　睦　記）

岡山グループ
OKAYAMA

2012年
●陽のあたる岡展　11月21日～26日
岡山市アートガーデン　一陽会岡山グループ
●第63回岡山県美術展　９月５日～９日
山陽新聞社大賞　伊丹　脩
●伊勢原美術協会展　３月５日～11日
伊勢原市公民館
会員出品　泉谷淑夫
●関西一陽展　３月13日から18日
大阪市立美術館
委員出品　泉谷淑夫
●第24回個展　３月20日～２７日
横浜高島屋美術画廊Ａ　泉谷淑夫
●美へのまなざし展　６月14日～24日
岡山県天神山文化プラザ
委嘱出品　泉谷淑夫
●一陽会関西作家展　６月20日～24日
原田の森ギャラリー
委員出品　泉谷淑夫
●岡山県美術展　９月５日～９日
岡山県立美術館
審査員出品　泉谷淑夫
●一陽展　10月３日～15日
国立新美術館
委員出品　泉谷淑夫
●一陽展大阪展　10月23日～28日
大阪市立美術館
委員出品　泉谷淑夫
●岡山県美術家協会展　10月31日～11月４日
会員出品　泉谷淑夫
（前嶋英輝　記）

三重グループ
MIE

■三重一陽会活動

●「三重一陽会」活動について　4月30日(月)
会場　ル・プルミエアムール

●第57回一陽展推挙者
南部　聡（会員推挙）

■個人・グループの活動

●2012インプリマ国際版画展　5月～8月
ブラジル　土嶋敏男

●第７回ビトラ国際版画展
マケドニア　土嶋敏男

●寺井三泰個展　7月　三重画廊

●「三重県美術工芸教育研究会作品展」1月
三井昭典、南部　聡

●第30回上野の森美術館大賞展　4月～5月
南部　聡

●第４回全国公募展絵画展　7月
ビエンナーレうしく　南部　聡（佳作）

（土嶋敏男　記）

山梨グループ
YAMANASHI

■山梨一陽会活動

●峡北美術協会展　4月30日～5月5日
山梨県立美術館
吉田光雄、中沢明子、市村四方子

●山梨美術協会75周年記念展　7月15日～21日
山梨県立美術館
三井正人

●やまなし県民文化祭　10月24日～29日
山梨県立美術館
三井正人、吉田光雄

●やまなしトップアーチスト展　11月13日～18日
山梨県立美術館
三井正人、吉田光雄

●山梨美術協会会員展　2月1日～7日
山梨県立美術館
三井正人

（吉田光雄　記）

コラム『陽溜り』

一陽 編集子

トリエンナーレ神通峡美術展大賞
「水の恵み 一生命一」（部分）

山本　文郎 会員

世上、政界・官界・○○学会・芸能界・スポーツ界・文壇・etc.…我こそは！ の自己顕示、目立ちたがりは、枚挙にいとまがない。無論、大前提としての才能・実力・評価あってこそのハナシ…。

芸術の分野も例外ではない。所詮は競争原理社会、表現者であればこその、一層の名声を求めるのに、何等不思議は無い。我が一陽会作家も他流試合・道場破り・賞金稼ぎ…の（やゝ物々しい言い方だが、コンクール展のことです）武芸者、女剣士が顕在して頼もしい。

ところで、いささか旧聞に属するかも知れませんが、昨今では希少と云うか、シャイ（内気）と云いますか、謙譲で奥ゆかしい作家がいるものです。絵画部会員（富山県在住）の山本文郎さんが、その人であります。周囲の方々から編集子が伝え聞いた時は、もう数年が経過していましたが、是非、資料を送って欲しいと催促し、大量の新聞掲載記事や図録が届きました。紙面の都合上、数項の中から２件だけ、ここに紹介しましょう。

●2006「神通峡美術展」にて大賞・受賞（審査員、野見山暁治、乾　由明、他）

●2010「となみ野美術展」にて大賞・受賞（審査員、雪山行二、他）

いずれの作品も一陽展でお馴染みの赤味を帯びた卵のような、豆粒状の球体が、びっしり画面を埋め尽くす「生命」を主題としたシリーズです。遅ればせながら、改めましてお慶び申し上げます。

どうぞ、出品者・会友・会員・委員の皆様、どんどん情報をお寄せ下さい。お待ちしています！

★次回原稿締め切り★
2014年１月末日

〒262-0013
千葉市花見川区犢橋(こてはし)町62−41
Tel&Fax 043(286)5236
山田　久子まで

彫刻部研修会報告

彫刻部 会員　田口　哲也

◇彫刻部研修会　平成24年12月８日(土)　六本木にて
◇テーマ　「一陽会の思い出～第２回展から出品して～」
◇講　師　一陽会運営委員　三輪乙彦

彫刻部研修会会場風景
（左奥、講師 運営委員 三輪乙彦氏）

今年度の研修会は、一陽会の草創期を知る三輪乙彦氏を講師に迎えて行われた。

第１回一陽会展の搬入風景やその会場写真、第１回展から第10回展までの展覧会目録の表紙等貴重な資料をもとに、一陽会と共に歩まれた57年間の思い出を熱く語られた。以下は、その概要を記す。

1　一陽会の思い出

昭和30年、野間仁根、鈴木信太郎、高岡徳太郎、萩野康児各先生方の情熱により二科会から分れて「一陽会」が結成された。グループ展ではなく、公募展を開催していくことは、まず資金面で大変なご苦労があったようだ、

第２回展は、搬入場所が旧都美術館、会場が日本橋高島屋として開催された。当時中村輝先生が、創立会員の植木先生を私に紹介してくださり、その時の植木先生の彫刻家としての風貌が今も強く印象に残っている。

第４回展からは、６本のエンタシスの石柱がある上野の旧都美術館に移り、開催された。しかも、秋の第二陣の中に一陽会が入ったことに感激し、壮大な石段の上に立つ６本のエンタシスの石柱の間に、左より「一水会展」、中央に「一陽会展」、その右に「新制作展」と大きな垂れ幕が並ぶ光景がとても印象に残っている。

第10回一陽会美術展覧会表紙
1964年 絵・野間仁根

2　野間仁根先生との思い出

会員になった翌年、野間先生が若輩の私に、行動美術の重鎮向井潤吉画伯を紹介してくださった。私たちが学生時代に憧れていた向井画伯と野間先生が、旧二科時代から同志として会派を超え、日本美術界で活躍しておられたことから、本当に夢のようで、野間先生の優しい心遣いが今も心に残っている。

3　高岡徳太郎先生との思い出

高岡先生がお一人で事務所におられた時、私に一陽会名古屋巡回展の状況を尋ねられたことがある。（名古屋巡回展は、第７回展から名鉄百貨店で高岡先生のお世話により開催されるようになったと伺っている。）その折り、フランス留学時代の話をして下さったことを鮮明に覚えている。パリでは同じアパートに林武画伯が住んでおられたことやいろいろな面白いエピソードを話して下さった。高岡先生は、日頃から彫刻部の私たちにとても温かく接して下さり、うれしく思っていた。また、高岡先生は、一陽会結成前から植木先生と親しくされ、その絆から絵画部でありながら彫刻部をよく見守っていただけた。一陽会彫刻部は、本当によき指導者に恵まれて発展してきたと思う。

4一陽会の野外彫刻（大イチョウの元で）

第21回展より一陽会展は都美術館で開催することができた。これは、旧都美術館時代から委員の方々の永年の努力で念願が実現することになったことは、忘れてはいけない。

彫刻部として都美術館の野外展示は、大イチョウのある自然空間をうまく利用してきた。小池委員をはじめ、今は亡き高嶋委員が中心となり、ベテラン作家と若い作家が協力して雨の中で搬入、陳列する姿は、とても清々しかった。作品は、石、木、金属、テラコッタなど多彩な表現で互いに美しく響き合い、一陽会独自の造形空間が演出されていた。

今後も、その流れの中で国立新美術館においても、新鮮で魅力ある展示を絵画の方々と共に築いていきたいと思っている。

鈴木　力展

池田20世紀美術館
2012年10月11日～2013年1月8日

文責・ 一陽　編集子

一陽会 58 回展会期と一部重なる日程の中、筆者が訪れた日は、鈴木御夫妻、森先生夫人がおられ、会員の竹田明男、受賞者の尾山隆夫両氏が石川県から車を飛ばしてやってこられた。ちょうど新聞社の取材があり、即興のギャラリートークの様相になったりした。

毎年一陽展会場で圧倒的存在感を放つ 300 号の大画面がズラリと一同に展示された壁面は、まさに壮観そのものであった。主要なモチーフの稲妻の音と光が交錯し、爽快に鳴り響いてくるのである。一方、また鈴木ワールドの魅力と云えば、イタリアの古都の街々の壁に見る、云うところのパーントシエナ風のテンペラ画の肌合い、そしてプリミティブな象形模様の如き童画風な温もりであろう。「海辺の僧院」と題された２点や「ポンペイの天使」などは好例である。軽妙洒脱、天衣無縫なのだ。

ふと、これって一陽会創立会員の鈴木信太郎、野間仁根先生などに、ごく近い画境ではないか…と思ったのである。

充実した展観、いただいた画集も立派なものであった。

イタリアの詩…のサブタイトルがつけられた、鈴木力運営委員の大型企画個展が開催された。伊豆、伊東の景勝地一碧湖畔にある、同時代の現存作家の企画展で知られたミュージアムである。一陽会としては、故・森　秀雄代表に続いて２人目の快挙である。

「海辺の僧院」2006 年　テンペラ

六﨑　敏光　彫刻展

－心のフォルムが描いた軌跡－
しもだて美術館
2013 年1月 26 日～3月 24 日

文責・ 一陽　編集子

「生成」平成 19 年 アルミ 高 88 ㎝

一陽会彫刻部の六﨑敏光運営委員の創作の全貌を通観する企画展が、先生ゆかりの茨城県しもだて美術館で開催された。出品点数 55 点、さらに屋外モニュメント作品等の写真パネル 13 点を網羅した大規模な個展である。六﨑先生の彫刻の集大成と称することが出来よう。同美術館々長は著名な美術評論家の、一陽展にも毎年御来場いただく安井収蔵先生で、大判のカラー展覧会図録やリーフレットに執筆されている評論は感銘深い鑑賞者への道案内になっている。

彫刻家六﨑敏光の芸術を私的に端的に云うとすれば、それは実在と空間の幸せな共存とでもいえようか…。直截で明快、おおらかで温かく、時にユーモラスでさえある。

「であい」平成２年 アルミ 高 100 ㎝

初期のモデリング感の強い荒々しさから、徐々に様式化、抽象化へと自然体で移行していくことに説得力がある。

筆者は何故か個人的見解として「生成」（平成 19 年・アルミ）が好きなのだが、どこかパブロ・ピカソの立体作品にも通じる楽しさがあって癒される。

また、ギリギリなまでに削ぎ落とし、妥協を許さぬ造形を生み出す厳しい作家精神も痛いほど感じる。とは云うもの、心地よい風が作品を通り抜け、ひきつづいて当方の体の中を吹き抜けて行くのである。

企画・発行／一陽会
編集責任／細川　尚（一陽会事務所）　原稿担当／山田久子
写真提供／棚倉英雄・アートデザインセンター・末正 真礼生
制作・印刷／大和美術印刷株式会社　発行日／ 2013 年４月 10 日

一陽会事務所
〒292-0402 千葉県君津市西原 502－1
Tel&Fax 0439－35－2849
http://www2.ucatv.ne.jp/～itiyokai.snow/